

愛知医科大学学報



グランドオープンで賑わうスターバックス愛知医科大学店（関連記事26頁）

＝ 第168号 ＝

2022.10月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和5年度予算編成方針……………	2
令和4年度総合防災訓練実施……………	3
創立50周年記念事業募金のご協力のお願ひ……………	4
教授就任インタビュー……………	14
令和4年度オープンキャンパス開催……………	15
2022年度医学部白衣式挙行……………	19
教育・研究最前線……………	40
Smile ～スマイル～ ……………	42

令和5年度予算編成方針

I 基本方針

令和になってからの本学の事業活動収支差は、令和元年度の3.8億円、翌令和2年度には9.6億円と順調に黒字幅を広げることができました。更に、令和3年度においては、事業活動収入及び事業活動支出双方が初めて500億円を超える事業規模となり、経常収支の黒字額は15.8億円（対前年度64%増）を計上するに至り、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受ける中でも地道な努力を積み重ね、財政基盤を整えることができました。

コロナ禍も3年目に突入した令和4年は、これまでをはるかに上回る感染の波が日本列島を襲い、2月3日には全国で初めて10万人を突破することになりました。そして夏に「第7波」が日本列島を襲い、8月19日には全国で26万人超の新規感染者が確認されて過去最多を更新する事態となりました。令和4年9月1日時点で、日本ではこれまでに約18,918千人が新型コロナウイルス感染症と診断されており、これは全人口の約15%に相当する人数です。この感染拡大で職員や学生も大きく影響を受けていますが、教育活動、診療活動に影響が出ないよう最大限の努力を続けていかなければなりません。

本学財政を取り巻く状況をみると、新型コロナウイルス感染症や国際情勢の影響などにより、物価・エネルギー価格の高騰や資材不足が発生し、これと同時に国内外の金利差拡大の影響による急速な円安が生じていることから、令和5年度の本学財政を取り巻く環境は厳しいものがあり、こうした中であっても持続的な発展を目指すためには経常経費の一層の効率執行に努め、将来への投資的経費や新規事業に取り組む財源を確保することが必要となってきます。

将来にわたり、健全でいざというときには瞬発力を発揮できる財政力を貯えるためには、中期計画に掲げたイノベーションプロジェクトの成果を活用して財務体質を強化し、持続可能な財政基盤を確立することが、本学に求められています。

本学は令和4年度に創立50周年を迎え、記念事業10項目の推進に取り組みましたが、その一つとして開設されたメディカルセンターも3年目となります。整備期間を終え、本格稼働の段階となります。また、令和4年7月に開院した眼科クリニックMiRAIの当初計画通りの進展が求められます。

こうした状況を踏まえ、令和5年度予算編成においては、更なる発展に向けて、イノベーションプロジェクトの一層の推進を図る一方で、役割を終えた既存事業の廃止・見直しも手抜かりなく取り組むことで、選択と集中による戦略的な財政運営を推進することを基本方針とします。

なお、国からのコロナ関連補助金の状況など、今後の情勢の推移によっては、予算編成の見直しもあり得ることとします。

II 重点事業

令和5年度予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の積み上げ目標金額を10億円とし、事業活動収支予算ベースでは、経常収支の黒字予算確保を図ることとします。

上記の考えを具体の予算に反映するため、各編成単位においては中長期的な観点に立った次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めることとし、定量的な成果が見込める事業を優先します。

<重点事業の目的>

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 教育機関としての成果が期待できる事業 | 6 創立50周年記念事業 |
| 2 研究支援体制の強化に係る事業 | 7 イノベーションプロジェクト事業 |
| 3 病院の機能活性化推進事業 | 8 大学・病院の機能維持に必要な大規模修繕工事 |
| 4 医療収入・薬品材料費・診療材料費・人件費（法人全体） | 9 厳に必要となる事業で、予算会議での議論を要するもの |
| 5 私立大学等改革総合支援事業対策 | |

令和4年度総合防災訓練実施

愛知医科大学消防計画・大規模災害対策マニュアル及び愛知医科大学病院事業継続計画に基づき、令和4年10月20日(木)に教職員、学生合わせて約1,000人規模の総合防災訓練が行われました。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見合わせており、今年度も病院訓練の一部では、引き続き実施を見送る実地訓練もありましたが、ようやく3年振りに開催できることとなりました。

今回の訓練は、南海トラフ地震でマグニチュード9.0、震源地は熊野灘沖フィリピン海プレート、南海トラフとして、長久手市で震度6の地震を観測、病院機能は一部麻痺しているものの、患者受け入れは行うことを想定し実施されました。訓練内容については、大学、病院、法人本部と三部門に分けて行われました。

大学部門では、学生避難誘導訓練や尾三消防本部の協力による消防隊員の指導で訓練初となる起震車による地震体験訓練、応急処置訓練など体験型の訓練や「学生が知っておくべき災害の医療」などの学生講義が行われました。

法人本部部門では、ライフラインの被害状況調査

報告や災害備蓄品の搬送訓練等が行われました。更に、非常用設備等の視察や、被災時に施設を支える設備が学内のどこにどのようなものがあり、どのくらいの期間機能するのか等を現場で目視し、その重要性について再認識しました。

病院部門では、事業継続計画(BCP)に基づき、チェックリストによる確認訓練が行われました。自分たちの安全報告、緊急検査等が可能かどうか、更に、夜間の緊急時にどのような検査ができるのか等の確認が行われました。

この訓練を終え、学生からは、「起震車振動の体験をしたとき、自分が想像していた以上に揺れることに驚いた。」などの感想があり、学生にとって大変良い経験になりました。また、災害対策本部による検証会では、2年間休止していたことに伴い、新たな課題が見つかりました。今般、被災地での被害状況がしばしば報道されていることもあり、防災の危機意識が教職員のみならず、学生にも十分高まってきています。今後も教職員及び学生がより一層防災の重要性を認識することができるよう実りある防災訓練を行っていきます。



起震車による地震体験訓練の様子



水消火器を用いた消火訓練を行う学生



エアストレッチャーを用いた患者搬送訓練を行う学生



災害対策本部での検証会の様子

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなく～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

愛知医科大学は令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えます。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の

基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年4月 メディカルセンター開院



令和4年1月 2号館4階に誘致



令和4年7月 眼科クリニック Mirai 開院

創立50周年記念募金 募集要項

募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金

目標金額 10億円

募集金額 個人1口1万円，法人1口5万円

※できましたら、多数口のご協力をお願い致します。

募集方法 ①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

（払込取扱票をご希望の方は資金・出納室寄附金担当までお問い合わせください。）

②インターネットのお申込みによるクレジットカード、ペイジー等でのお振込み

税制優遇措置 所得税（法人税）の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

税制手続きにより寄附金控除が適用されます。

スマホから寄附の
お申込みができます



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部資金・出納室寄附金担当

TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医大 募金

検索

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名(敬称略)

創立50周年記念事業募金(創立50周年に向け先行した教育・研究・診療の基盤整備事業募金含む)にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

ご寄附をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

(平成30年4月1日～令和4年10月31日現在)

募金総額：738,656,053円 募金者数：個人 554件、法人・団体 145件

<個人>

青木 重久	青鹿 昌純	青山 邦彦	青山 俊博	青山 正寛	秋山 邦夫	秋山 征巳
浅井 和子	朝井 規仁	浅井 紀裕	浅井 博行	浅野 公造	浅野 貴徳	足立 義一
渥美 一成	天池 要治	天野 哲也	鮎川 浩志	有木 玄	有馬 隆紘	有賀 雅和
安藤 靖	飯田 章人	飯田 和子	池田 亜紀	池田 樹一	石川 厚子	石川 俊一
石澤 義也	石島 正嗣	石橋 宏之	泉 雅之	井田 雅章	市川 嘉一	市野 光太郎
伊藤 恵一	伊藤 壽美	伊藤 后子	伊藤 恭彦	犬丸 達也	井上 順子	今井 紀子
今井 裕一	今枝 佑輔	岩田 裕次	岩船 徹雄	上野 隆彦	宇佐美 覚了	宇佐美 公子
牛田 享宏	内田 稔也	内山 弘子	内海 眞	戎井 浩二	老沼 和弘	大須賀 友晃
太田 浩敏	大野 和子	大野 則和	大橋 由政	岡 義隆	岡川 友子	岡川 行重
岡澤 光修	岡田 永三	緒方 昌平	岡田 太郎	岡野 敏明	岡野 七重	岡村 憲樹
岡本 英文	岡本 雄一	岡本 利一	小川 麻子	小川 徳雄	奥田 直樹	奥永 知宏
奥山 誠	長田 和久	折本 有貴	海原 彰二	各務 秀明	笠井 謙次	梶浦 克之
春日井 邦夫	春日井 孝	勝野 正英	加藤 浩二	加藤 純子	加藤 豊文	加藤 宏泰
加藤 正治	加藤 雅通	加藤 唯	加藤 庸子	加藤 龍寿	金谷 雄生	金桶 陽
神谷 英紀	神谷 美帆	川合 尚	川崎 恭典	川谷 陽子	川本 恵子	河本 博喜
神戸 康秀	完山 秋子	完山 紘平	岸川 典明	岸本 知樹	木原 幹洋	金 節子
木村 光利	木村 行宏	金 日成	久野 健一	久野 里佳	久保田 雅博	黒川 道雄
黒木 玲子	小出 詠子	幸野 照	小島 順司	小杉 将仙	小塚 聡	小天 和也
後藤 雄州	後藤 八千代	後藤 淳	後藤 英之	小西 健一	小林 加奈子	小林 徹
小林 博文	小林 史樹	小林 良太	小森 直之	小森 睦美	近藤 忍	近藤 瑞枝
佐井 紹徳	齋藤 隆司	齋藤 庸男	齋藤 照男	西塔 誠幸	才村 弘也	三枝 純一
三枝 園子	酒井 有理	榊原 綾子	坂卷 隆男	坂本 真理子	佐々木 拓次	佐々木 裕茂
佐々木 誠人	佐々木 祐一郎	佐藤 千代香	佐藤 元彦	佐藤 良幸	實政 裕	塩見 利明
篠原 康一	篠原 早紀	柴野 英典	柴山 始久	島田 孝一	嶋吉 敏文	志水 明浩
清水 國樹	清水 宗久	清水口 彩加	杉本 泰洋	鈴木 幸司	鈴木 伸	鈴木 信吉
鈴木 泰子	住田 香澄	千田 憲一	千田 弘子	宗宮 教壹	園田 和生	祖父江 元
高瀬 かね子	高田 勝	高田 麻哉子	高橋 佳子	高橋 進	高橋 孝子	高橋 知生
高橋 靖弘	高見 昭良	高村 祥子	高柳 友子	高柳 泰世	武居 敦英	竹田 幸祐
武田 千代子	竹原 成浩	竹本 昌三郎	多々内 友美子	田中 一字	田中 信彦	田中 英成
田中 正彦	田中 元子	田中 元也	田邊 和彦	田邊 直樹	玉田 としこ	塚 晴俊
番井 利恵	塚本 芳春	對馬 伸晃	都築 豊徳	都築 史恵	土井 浩史	土居 聡
堂森 丈正	遠山 美智子	富樫 孝	土岐 八雄子	富田 幸嗣	富田 裕一	中川 洋
中川 喜博	中島 隆世	中島 鉄夫	中嶋 博久	中筋 名保恵	仲谷 宗裕	長縄 三千代
中西 照明	中野 久美	中野 正吾	中村 悟己	中村 誠	中山 貴子	成田 篤彦
成田 憲治	西井 裕和	西田 恒紀	西塚 麻代	西村 基	西山 耕	野場 万司
長谷川 恒雄	羽根田 雅巳	早川 千代子	林 和子	林 清博	林 博子	林 基志
林 嘉輝	葉山 国城	原 遠	肥後 夏月	樋上 啓子	樋上 泰成	平野 達也
廣川 光之	廣瀬 真仁	廣瀬 善道	深井 健一	深田 大	福井 高幸	福岡 孝泰
福澤 嘉孝	福智 寿彦	藤田 守彦	藤林 孝義	藤本 保志	藤原 祥裕	二神 正文
二村 眞秀	古井 景	古岡 邦人	古川 洋志	古田 朋子	細川 好孝	堀田 幸嗣
堀部 博	前田 一成	牧野 吉秀	増岡 尚子	間瀬 武則	町田 智美	松井 康哲
松尾 高嗣	松岡 哲平	松平 仁	松本 拓也	松本 芳子	松山 英里子	松山 華奈美

三浦 久美子	三鴨 廣繁	水谷 正子	水野 昌平	水野 真理	水本 強一	三岡 裕貴
箕浦 恵	宮下 直人	宮地 茂	宮本 知	村上 恒久	村松 忠	森 俊彰
森川 彰子	森川 晋吾	森田 絵万	安井 幸藏	柳 利男	柳澤 和裕	柳原 崇
矢野 浩一郎	矢野 智紀	山尾 令	山川 ありさ	山川 日出雄	山口 孝太郎	山口 力
山崎 節正	山田 大介	山田 敏子	山田 晴生	山田 昌樹	山中 寛紀	山本 順一郎
山本 千廣	山本 祐歌	山本 美子	梁 裕昭	横井 喜代子	横内 定明	吉江 康二
吉田 一光	若槻 明彦	脇田 慎司	早稲田 勝久	渡邊 栄三	渡邊 大輔	渡辺 貴昭
渡邊 寿則	渡邊 一司	渡邊 慎				

(匿名 158件：五十音順)

<法人・団体>

一般財団法人愛知医科大学愛恵会	愛知医科大学医学部後援会	愛知医科大学看護学部同窓会
愛知医科大学看護学部父母会	一般社団法人愛知医科大学同窓会	愛知医大サービス株式会社
あいち尾東農業協同組合	朝日機器株式会社	安藤建設株式会社
医療法人社団生き生き会	医療法人相生会稲川耳鼻咽喉科	医療法人H&H
株式会社エバ	株式会社エフエスナゴヤ	オオサキメディカル株式会社
株式会社オーテック環境システム事業部中部支店	株式会社大林組名古屋支店	株式会社カーク
鹿島建物総合管理株式会社中部支社	川重冷熱工業株式会社	医療法人社団喜峰会東海記念病院
医療法人社団京愛会	株式会社きんでん中部支社	医療法人久和会
医療法人櫻の森	けんこう長寿株式会社	株式会社コアズ
医療法人絃心会	医療法人香徳会	株式会社サーティフォー
医療法人幸会	医療法人社団さかいファミリークリニック	株式会社桜木不動産コンサルタント
三機工業株式会社中部支社	三友電子株式会社	シーアンドエス株式会社
株式会社シーエナジー	有限会社シーメディックス	医療法人篠崎医院
株式会社篠田商会	医療法人湘山会眼科三宅病院	医療法人勝心会芳賀クリニック
医療法人如水会	医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック	有限会社シルバーホームほのほの
医療法人スズムラ眼科医院	医療法人すまいる皮フ科クリニック	星光ビル管理株式会社
積水メディカル株式会社	株式会社セレスポ名古屋支店	株式会社ソラスト名古屋支社
タイガー総業株式会社	医療法人社団大誠会	医療法人もみじ会田崎医院
株式会社タスクフォース名古屋支店	株式会社田中葬具店	中部連合読売会
TMES株式会社	電子システム株式会社	東京音楽工業株式会社
株式会社トーエネック	医療法人幸信会とみやす整形外科クリニック	豊田信用金庫
株式会社トラム	医療法人長尾会・ねや川サナトリウム	中尾産業株式会社
株式会社ナカシマ	中日本航空株式会社	株式会社名古屋医理科商会
株式会社名古屋銀行	ナゴヤホカンファシリティーズ株式会社	医療法人にのみ歯科医院
株式会社ニチイ学館	日本建築検査機構株式会社	株式会社庭萬
ネットワンシステムズ株式会社	株式会社馬場器械店	日の出衛生保繕株式会社
医療法人平竹クリニック	医療法人福智会	医療法人福智会すずかけクリニック
医療法人福友会	不二印刷工業株式会社	富士産業株式会社
医療法人社団崇仁会船戸クリニック	医療法人ふれあい会	株式会社堀場測量設計
株式会社マイナビ	三浦工業株式会社春日井支店	医療法人美衣会衣ヶ原病院
三菱電機ビルソリューションズ株式会社中部支社	村角工業株式会社	医療法人明眼会西垣眼科医院
名鉄バス株式会社	株式会社山菊	株式会社山岸設備
株式会社山下設計	医療法人行橋クリニック	株式会社ライス加納
理科研株式会社	株式会社リイツメディカル	医療法人る・ぶてい・らばん
医療法人和光会	ワタキューセイモア株式会社	

(匿名16件：五十音順)

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（創立50周年記念事業募金）においても掲載しています。

令和5年度採用事務職員内定式挙行

令和4年10月3日（月）午後3時から大学本館7階701会議室において、令和5年度採用事務職員内定式が挙行されました。

式では、内定者10名に内定証書が授与された後、島田孝一法人本部長から「今年本学は創立50周年を迎える記念すべき年であり、10の事業を行っています。本学は、未来に向けたプランを具体的に備えていく取り組みを行っており、それらが軌道に乗るかどうかは事務職員の働きにかかっています。皆さんが入職された際には、スタートで躓くことなく、自分でできることは努力し、自分ではどうにもできないことには囚われないことが重要です。来年の4月



内定者との記念撮影

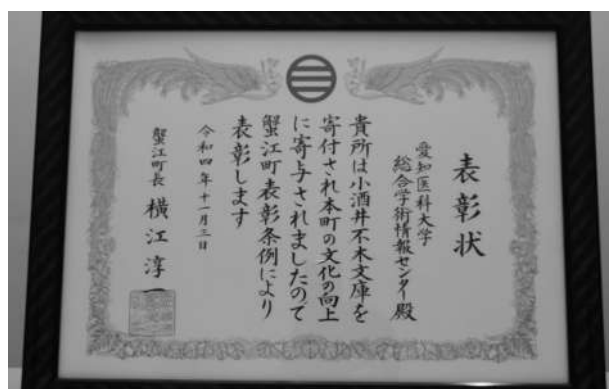
に、万全の状態の皆さんに再会できることを待っています。」とあいさつがあり、午後3時30分頃に式は終了しました。

小酒井不木文庫寄贈に対し蟹江町長から表彰

令和4年11月3日（木・祝）に開催されました第61回蟹江町表彰式において、総合学術情報センターが「小酒井不木文庫」を蟹江町に寄贈したことに對し、蟹江町長から表彰を受けました。【写真】

小酒井不木文庫は、作者の小酒井不木が、探偵小説家でありながら、医師でもあったことから、医学部を擁する本学へ文庫を寄贈され、総合学術情報センター（図書館部門）において所蔵されていたものです。近年では、文庫の破損が進み、保存の難しさから貴重書の保管に苦慮しておりました。

小酒井不木生誕の地である蟹江町の小酒井不木資料室では、小酒井不木の遺品等を積極的に収集して



おられ、同文庫の寄贈を希望されておりました。同資料室から、防虫等の適切な処置を行い、貴重書として大切に保管する旨の申し出があり、寄贈を決定致しました。

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます。

大学病院を有する本学へのご協力として、BENKEI様から食料（菓子パン300個）のご寄付についてお申し出を賜りました。このたびのご厚意に

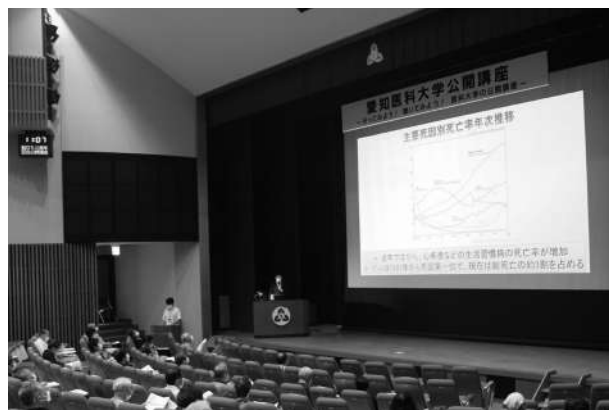
深く感謝申し上げますとともに、前号に引き続きご紹介させていただきます。（受領期間：令和4年8月1日～10月31日）

令和4年度愛知医科大学公開講座終了

令和4年9月3日（土）、17日（土）、24日（土）及び10月1日（土）の計4回にわたり開催された令和4年度愛知医科大学公開講座が終了しました。

本年度の公開講座は、本学が創立50周年を迎える節目の年であることから、総合テーマを「創立50周年記念公開講座」として開催し、開催期間中には、近隣住民の方を始め、4日間で延べ451名の方々にご参加いただきました。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した会場での開催とし、座席間隔を十分に空け、申込制による人数制限を行ったため、ご来場いただくことができなかった方々にも当日の講演内容をご視聴いただけるように大学ホームページに動



公開講座の様子

画を公開致しましたので、是非ご覧ください。

これからも本学では、地域の方々の健康に役立つ公開講座を企画・運営していきますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

長久手市大学連携事業 令和4年度ワーキング「学生によるBLSオンライン講習会」開催

長久手市に設置される4大学（本学、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学）において、「長久手市大学連携推進ビジョン4U」が策定されており、本学看護実践研究センターの地域連携・支援部門が中心となり、連携事業を実施しています。その事業の一つとして、令和4年8月27日（土）に、令和4年度ワーキング「【愛知医科大学イベント】学生によるBLSオンライン講習会～大切な人を守るために知っておきたい一次救命処置～」が開催されました。

このワーキングは、コロナ禍での開催となったため、ビデオ会議システムZoomによるオンライン形式での開催となりましたが、本学医学部6学年次生の棚本晃士朗さん始め学生が指導役となり、連携する他大学の学生や参加を希望された市民の方々に初期の救急処置の仕方について講習が行われました。

オンライン形式による開催のため、伝え方が難し



ZoomでAEDの説明を行う棚本さん

い内容もありましたが、急病となった患者さんへのAEDを用いた処置の初動対応や、胸骨圧迫の方法を見てもらい学習していただきました。受講者からは、「貴重な経験となった。」などの好評をいただきました。

今後も様々な取り組みが予定されていますので、地域における本学学生の活躍にご期待ください。

第204回長久手市火曜会例会の本学開催

令和4年9月13日（火）午前10時30分から大学本館7階711特別講義室において、第204回長久手市火曜会例会が開催されました。

火曜会は、長久手市内にある官公庁及び市に関連のある事業所等で組織され、会員相互の親睦を図り、業務の連絡の円滑化に資し、この地域の発展に寄与することを目的として昭和60年に設立されており、本学は設立時から加盟しています。

当日は、開催地を代表して祖父江元 理事長から、本学が今年創立50周年を迎えることから50周年記念事業の紹介を含めたあいさつがあり、続いて、会員紹介や各種報告が行われた後、施設見学が行われました。

施設見学は、2班に分かれてドクターヘリと完成間近のスターバックスを視察し、それぞれの施設において、担当者から説明がありました。

従来は昼食を交えた懇談を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、折詰の配布があり、会は終了しました。



本学を紹介する祖父江理事長（中央）



スターバックス見学の様子

災害医療研究センター 厚生労働省令和4年度老人保健健康増進等事業採択

本学の災害医療研究センターが応募した「海拔ゼロメートル地帯における南海トラフ地震時情報、気象災害特別警報発令時の高齢者介護施設の対応に関する調査研究」事業が、厚生労働省の令和4年度老人保健健康増進等事業に採択されました。

事業期間は令和4年6月6日から令和5年3月31日までであり、災害医療研究センターの教職員に加え、高齢者介護施設、市町村、保健所、医療機関の職員を含めた検討委員会を設置し、海拔ゼロメートル地帯に所在する高齢者介護施設の災害対策等について調査・分析を行い、南海トラフ地震時情報、気

発災時での施設行動

- 低層階であるグループホームは止水板・盛土・土嚢詰め等で発災後すぐに止水対策を行う必要がある。
- 冠水する可能性のある施設は近隣の高層建物に避難することが望ましいが、盛土などの事前対策が必要である。
- 中高層建物は垂直避難で上層階に移動するも、浸水期間が3日以上続くことから、必要最低限の食料・飲料水・ライフラインの10日以上以上の備蓄が必要である。



Zoomによる第1回検討委員会の様子

象災害特別警報発令時における湛水地域内高齢者介護施設のためのBCPモデルを作成するとともに、各施設に対し普及を図ることを目的としています。

令和4年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

事務職員向け学内研修実施

令和4年6月から、事務職員が各部署の業務内容と最新情報を理解することで知識向上と業務の効率化を図ることを目的として、事務職員向け学内研修が実施されました。実施に当たり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各回定員を設けての実施となりました。

同じ事務職員でも、他部署がどのような仕事をしているのかについて普段なかなか知る機会がありませんが、この学内研修を通して、各部署の業務内容、他

署との違い、業務において気を付けるべきポイントなどについて、研修講師から説明があり、基本的知識や最新情報を事務職員同士で共有することができました。

受講者からは、「普段あまり関わりがない部署について、知る機会となった。」「具体的な業務内容についてあまりイメージが持てなかったが、研修を通して理解を深めることができた。」といった感想がありました。

今後も様々な部署に講師を依頼し、本研修を事務職員の知識向上と情報共有の機会とする予定です。

<事務職員向け学内研修>

開催日：6月17日（金）

テーマ：経営戦略推進事務室の業務紹介

講師：佐藤祐輔（経営戦略推進事務室、主査）



開催日：8月3日（水）

テーマ：施設・建設室の業務紹介

講師：大森俊直（施設・建設室、主任）



開催日：10月5日（水）

テーマ：総合学術情報センター事務室（図書館部門）の業務紹介

講師：榎原佐知子（総合学術情報センター事務室、主任）



開催日：10月19日（水）

テーマ：医療情報管理課の業務紹介

講師：濱中美穂（医療情報管理課、主事）



全学コミュニケーション研修 「行動経済学・ナッジ理論を活用したコミュニケーション研修」実施

令和4年7月13日（水）、21日（木）、27日（水）、8月1日（月）、4日（木）の5日間にわたり、大学本館たちばなホールにおいて全教職員を対象とした全学コミュニケーション研修が実施され、421名の教職員が参加しました。

本研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、ペアワークによる実践演習を取り入れて実施しました。

研修では、「行動経済学・ナッジ理論を活用したコミュニケーション」というテーマで、行動経済学を活用したコミュニケーションについて学びました。アンケート結果には、「患者さんや現場でのコミュニケーションに活かしていきたい。」「あまり関わる機会がない他職種の職員とも関わるのができた。」など好意的な意見が多くあり、日常や職場



ペアワークに取り組む参加者たち

で活用できる「相手の心理に寄り添い、心・行動を動かす」アプローチについて理解を深めることができました。

目標管理評価者研修実施

令和4年8月30日（火）大学本館たちばなホールにおいて、午前・午後の二部制で目標管理評価者研修が開催されました。午前の部は評価初心者や基礎を再度確認したい方向けに、午後の部は評価経験者や評価に悩みがある方向けの内容として開催され、97名（内、メディカルセンターでのZoom受講者30名）の管理職が参加しました。【写真】

今回の研修では、人事評価の意義は「組織目標実現のために人的資源の価値を上げること」という前提を確認した上で、評価の手順や面談のフローについて学習しました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、出席者間で評価結果の共有を行うグループワークを実践し、新しい評価の視点を学びました。講師からは、評価時に陥りやすい考え方や、面談での効果的な声かけの仕方、フィードバックの重要性について具体例が提示され、被評価者から納得感を得るための評価方法を学びました。



受講者アンケートでは、「管理職として同様の悩みを持っている職員と思いを共有できた。」「人材育成やモチベーション維持につながる目標管理ができるように、目標設定・評価の参考にしたい。」などの感想がありました。

昇任者研修「主任・主査として求められる問題解決」実施

令和4年10月21日（金）大学本館701会議室において、事務職員を対象とした昇任者研修が実施され、19名の事務職員が参加しました。本研修は「主任・主査として求められる問題解決」をテーマに、令和4年度に主任・主査に昇任した職員向けに実施されました。

受講者を4～5人の四つのグループに分け、講義及び個人・グループワークの形式で問題解決について学びました。各自で現状の問題点について書き出し、具体的な解決策を明確にするためのワークや、各グループでの意見共有が行われました。

受講者からは、「物事の捉え方の意識を変えることができた。」「日々の業務の中で課題に思っていたことが少し明確になった。」「講師の実体験も踏まえた講義内容で、説明が分かりやすかった。」「今



グループワークの様子

回学んだ一連の問題解決の手法を業務に活かしていきたい。」といった感想がありました。

ハラスメント防止講演会実施

令和4年10月25日（火）に大学本館たちばなホールにおいて、「組織のレジリエンスと多様性－ハラスメントが多様性を阻害する－」をテーマとしたハラスメント防止講演会が開催されました。【写真】昨年の講演会でご登壇いただきました筑波大学教授の松崎一葉先生を講師としてお迎えし、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した上で、教職員29名が受講しました。

講演会では、組織のレジリエンス（復元力の風土形成）とハラスメントについて、深くかつ幅広い内容でご講演いただきました。一つひとつのトピックスに対し、端的に分かりやすく説明されるとともに、具体的な事例や動画を織り交ぜていただきました。

研修会後のアンケートでは、「分かりやすい言葉でお話しいただき、有意義な時間でした。」「所属



する組織についても多様性を尊重しつつ、レジリエンスの高い組織にしていきたい。」という感想がありました。

eラーニングシステム (Moodle) 利用講演会開催

令和4年8月23日(火)に総合学術情報センター(ICT支援部門)主催による、eラーニングシステム(Moodle)利用に係る講演会がオンライン開催され、56名の参加がありました。

講師には、自治医科大学医学教育センターの浅田義和氏をお招きし、「AIDLEの更新に向けて:前バージョンからの変更点・改善点」と題して、本学のeラーニングシステムであるMoodle(本学名称:AIDLE)が9月にバージョンアップされることに伴い、従来からの変更点等について、サンプル教材の体験を交えてご講演いただきました。

講演では、4月にMoodleのバージョンが3点台(本学ではVer3.9)から4点台(本学ではVer4.0)に移行されたことで、今後、更に表示や使い勝手等

において大きな変化が起こっていく可能性が高いことや、現在本学が採用しているMoodleの表示形式(クラシック)についても今後はマイナーになっていく可能性が高いため、新たな表示形式に対応していく必要があることなど、Moodleの今後の展望についても説明がありました。

令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う遠隔(オンライン)講義の実施によって、講義や実習を補完するeラーニングの必要性が高まっており、一層の利活用が期待されます。

総合学術情報センター(ICT支援部門)では、今後も教育におけるeラーニングシステム活用のサポートを通じて学修支援を行うとともに、教育現場での活用に貢献することを目指しています。



教授就任インタビュー



加齢医科学研究所神経iPS細胞研究部門・教授

おかだ ようへい
岡田 洋平

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和4年10月1日付で加齢医科学研究所神経iPS細胞研究部門の教授を拝命致しました。謹んでごあいさつ申し上げます。本部門は、加齢医科学研究所の新たな研究部門として設置され、神経iPS細胞研究部門、iPS細胞樹立・解析部門、創薬開発部門、及びiPS細胞リソースセンターにより構成されています。主に、神経疾患を対象として疾患特異的iPS細胞（患者由来iPS細胞）を作成し、分化誘導、病態解明、創薬開発に至るまでのシステムの開発と解析、更には、疾患特異的iPS細胞によるバイオリソースの構築を進めて参ります。

本部門では、ヒトiPS細胞を用いることで、これまでの動物モデルではなし得なかった、ヒト患者由来神経細胞を用いた疾患モデルを作成し、より正確な病態の解明と治療開発、創薬を目指します。また、中部地区のiPS細胞研究の拠点となるべく、学内外を問わず、神経系に限らない幅広い共同研究を展開していきたいと思っております。特に、創薬開発には産学連携が必要不可欠であり、様々な企業との連携体制を構築していきたいと考えております。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

学生時代には、ワトソン・クリックのDNAの二重らせん構造に始まる分子生物学や分子遺伝学の基礎を学び、生命の神秘に感動するとともに、基礎医学の研究室での研究を通して、本質的な生命科学現

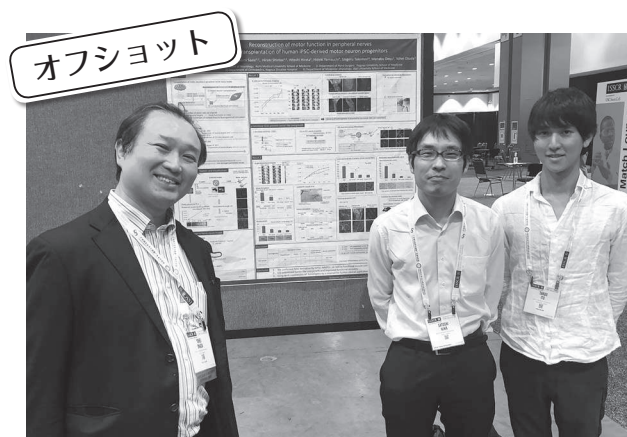
象を探求したいと思うようになりました。特に、Breakthroughを生み出すのは、神秘のベールに包まれる脳の研究であろうと思ひ、その後、脳神経内科の道に進むことに致しました。

大学卒業後には、脳神経内科医としての臨床研修を行うとともに、慶應義塾大学の研究室に所属して、世界でのぎを削るES細胞やiPS細胞、神経幹細胞の研究に携わりました。更に、脳神経内科医として患者さんに還元し得る研究を行いたいという思いから、本学着任後も、iPS細胞を用いた神経再生研究や、神経疾患研究を夢中になって進めてきました。研究を始めた頃の感動を忘れないように、今後も研究を楽しんでいきたいと思ひます。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

学生時代の数年間は、人生の方向性を探索し、準備を進める大切な期間であり、また、だからこそ悩み続ける時期でもあります。何よりも大切なのは、自分が夢中になって取り組むことのできる何かにチャレンジし続けることだと思います。学生の皆さんには、日本国内に限らず世界中に飛び出して、様々な人に会い、幅広い経験を積み、失敗を恐れずに何にでもチャレンジしていただきたいと思ひます。そして、一生を通して夢中になって楽しむことのできる何かを見つけていただきたいと思ひます。

神経iPS細胞研究部門では、学生や研修医、専修医など、皆さんの研究室への参加を歓迎致します。また、学内外の先生方と、様々な形での共同研究を推進していきたいと考えております。ご興味のある方は、お気軽にご連絡ください。iPS細胞以外の研究も可能です。(ホームページ：<https://okadalab-hp.com/>)



研究室メンバーとロサンゼルス
国際幹細胞学会にて

令和4年度オープンキャンパス開催

令和4年度オープンキャンパスは、来場型・Web型のハイブリッドにて令和4年8月13日（土）、14日（日）に開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年振りの来場者を招いての開催となり、医学部は100名、看護学部は40組80名と各日人数を制限し、感染対策を徹底して行われました。

来場者からは、キャンパスや教員・在学生など大学の雰囲気を直接見ることができ、オープンキャンパスに来なければ知ることのできない様々な体験ができたと多くの方々からご好評をいただきました。

また、「Web型オープンキャンパス」も前年に引き続き開催し、在学生による入試合格体験談の講演や個別相談会、入試過去問解説動画の配信が行われ、遠方等で当日来場することができない受験生にも好評でした。

◆ 医学部

〈来場型〉

- ☆ 学部長あいさつ・入試説明
- ☆ キャンパスツアー
 - ・ ドクターヘリ見学（救命救急科）
 - ・ 脳の標本観察（加齢医科学研究所）
 - ・ 実習体験（シミュレーションセンター）

- ☆ 教職員・学生による個別相談会

〈Web型〉

- ☆ トークライブ 入試合格体験談
- ☆ 愛知医科大学医学部入試過去問解説講座

◆ 看護学部

〈来場型〉

- ☆ 看護学部の概要・入試説明
- ☆ 看護学部棟ツアー
- ☆ 体験演習
- ☆ 在学生との座談会
- ☆ 教職員との個別相談会
- ☆ ドクターヘリ見学

〈Web型〉

- ☆ 在学生とのWeb個別相談会
- ☆ 教員とのWeb個別相談会



脳の標本観察



ドクターヘリ見学



赤ちゃんの呼吸と心拍を測定（母子看護学(小児)）



在学生とWeb個別相談会

【参加者の皆さんからの感想】

- ・入学後の授業のイメージがつきやすかったです。聞くだけでなく、心臓マッサージや手洗いなど、体を動かして学ぶことができました。加齢医科学研究所の先生の話は、普段、聞くことができない話で興味深かったです。ドクターヘリに実際に乗られている方はたくさん質問に的確に答えられており、尊敬できました。
- ・苦手教科の勉強の仕方など具体的に教えていただき、大変参考になりました。入試の際の面接や小論文に関しての対策方法が分からず、アドバイスをいただいたので実際の入試でも実践していきたいです。
- ・施設見学で在学生に説明をしてもらい、とても分かりやすかったです。体験演習では、新生児の人形を使って呼吸数や心拍数を知ることができました。より看護を目指す意欲を高められました。
- ・Zoomでの相談会でしたが、在学生の方が身近に感じられて良かったです。また、顔を見てお話しすることで親近感が湧きました。少し緊張しましたが、質問にとっても丁寧にご回答いただき、今度は実際に大学へ行ってみたいと思いました。

シンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部 アリス・リー看護学科との学術交流と協力に関する覚書の交換 及び研究計画に係る看護学部教員の派遣

令和4年8月16日（火）、新型コロナウイルス感染症急拡大の中ではありましたが、看護学部海外渡航に係る運用ルールを遵守し、昨年度遠隔（Zoom）により締結したシンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科（以下、シンガポール国立大学）との学術交流と協力に関する覚書の交換及び研究計画打合せのため、坂本真理子看護学部長、看護学部学術国際交流委員会の山本弘江委員長及び橋本茜委員がシンガポールへ渡航しました。

シンガポール国立大学のEmily Ang医学部看護学科長と坂本看護学部長が覚書の交換を行った後、Zhou Wentao准教授ほか、シンガポール国立大学の研究担当チームメンバー、調整担当事務官を含めた5名と本学教員で大学院看護学研究科の海外研修プログラム及び共同研究について打ち合わせを行いました。シンガポール国立大学では、本学研究科と同様に、高度実践看護師教育課程と修士論文課程を開設しており、海外研修の受け入れや教育・実践に関する共同研究について、今後連携していくことが



覚書交換の様子



打ち合わせ参画メンバーによる記念撮影

話し合われました。

今後は、大学院看護学研究科の海外研修プログラムをスタートさせ、活発な学術交流を進めていきます。

令和5年度大学院医学研究科入学試験 第77回論文博士外国語試験実施

令和4年10月7日（金）、大学本館711特別講義室において、大学院医学研究科入学試験第1次募集及び第77回論文博士外国語試験が行われました。合格者数は、大学院医学研究科入学試験が11名、論文博士外国語試験が2名となりました。

大学院医学研究科においては、入学定員に満たないことから第2次募集を予定しています。これまで

社会人入学制度や学納金減免制度の拡充などを行い、大学院教育を受けやすい環境を整えてきましたので、研究意欲の高い方が多数応募されることを期待しています。

なお、大学院医学研究科入学試験第2次募集及び第78回論文博士外国語試験は、令和5年1月27日（金）に実施予定です。

令和5年度大学院看護学研究科入学試験実施

令和4年9月7日（水）に令和5年度大学院看護学研究科入学試験が行われました。合格者は、修士論文コースが4名、高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースが8名となり、入学定員に満たないことから第2次募集を予定しています。

本研究科では、これまで医療等の現場で活躍されている方々が、退職したり休職したりすることなく学べるよう、平日の夜間や土曜日などにも講義、研

究指導を行っています。更に、勤務や育児などの事情により標準修業年限での履修が困難な学生を対象とした「長期履修制度」を導入し、社会人がより学びやすい教育環境を整えています。（高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースを除く。）

大学院看護学研究科入学試験（第2次）は、令和5年2月2日（木）に実施予定です。

令和3年度 ベストティーチャー賞表彰

令和4年9月2日（金）午前9時30分から大学本館役員会議室1において、令和3年度ベストティーチャー賞の授与式が行われました。

同賞は、平成29年度から導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今回は、大学院（医学研究科・看護学研究科）及び学部（医学部・看護学部）から合わせて8名の教員がベストティーチャーに選出され、祖父江元学長からそれぞれ表彰状が授与されるとともに、称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



授与式での記念撮影

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャー賞表彰者は、次のとおりです。

大学院

- 医学研究科
 - ・三嶋廣繁教授（臨床感染症学講座）
- 看護学研究科
 - ・佐藤ゆか教授（感染看護学領域）
 - ・泉 雅之教授（臨床実践看護学領域）

学部

- 医学部
 - ・中野 隆教授（解剖学講座）
 - ・岡田尚志郎教授（薬理学講座）
 - ・春日井邦夫教授（内科学講座(消化管内科)）
 - ・三嶋廣繁教授（臨床感染症学講座）
- 看護学部
 - ・若杉里実教授（公衆衛生看護学領域）
 - ・荻野朋子准教授（老年看護学領域）

学生ホールをリニューアルしました

大学本館3階の学生ホールは、主に本学学生が臨床実習前の待ち合わせ場所にしたり、お昼休みや休憩時間を過ごしたりするのみならず、自習やグループ学習をするための大切な場所です。

このたび、事前に希望調査を行い、学生からの要望が反映された学生ホールのリニューアル工事が8月に行われ、後学期から利用を開始しました。

見た目はおしゃれなカフェのような雰囲気となり、座席数が増えただけではなく、機能面においても各テーブルにコンセントを配備することで、パソコンやタブレットを用いたグループ学習が行えるようになりました。また、これまでなかった仕切りのある個人スペースも配置したため、一人のときも利用しやすい環境が整いました。



リニューアルを遂げた学生ホール

大きな変貌を遂げた学生たちの憩いの場所に対し、「使いやすく勉強が捗る。」「幅広い学年が使いやすい環境になり快適です。」など学生から多くの反響がありました。

ハワイ医学教育プログラム (HMEP) 開始

Webを用いた新たな学修方法がコロナ禍において定着しつつある中、国際交流事業の多様化を目指し、本学医学部は令和4年9月から一般社団法人JrSrが運営するハワイ医学教育プログラム (HMEP) に加盟しました。

加盟校の医学部学生は、参加登録することでオンライン学修と臨床実習を融合した米国式教育を他大

学の医学部学生と一緒に国内外で受講することができます。

また、米国医師国家試験 (USMLE) に対応するスキルを身につけられる構成にもなっているため、本プログラムを通して、世界にはばたく医療人の育成が期待されます。HMEPの四つのコースは次のとおりです。

《 全学年対象 》

- ① HMEP Open Cross Class *オンライン授業
- ② HMEP E-learning *オンラインの英語教材

《 高学年対象 》

- ③ HMEP Clinical Clerkship Preparation Program (HCCPP) *ハワイにて研修
- ④ HMEP Clinical Clerkship (HMEPCC) *日本国内にて臨床実習

2022年度医学部白衣式挙行

令和4年10月8日（土）午後2時から大学本館たちばなホールにおいて、2022年度医学部白衣式が、新型コロナウイルス感染症感染予防策を講じた上で挙行されました。

白衣式では、共用試験（CBT,Pre-CC OSCE）に合格し、臨床実習への参加が認められた医学部4学年次生に対して「Student Doctor」の称号が授与されました。学生は新しい実習衣を身に付け白衣式に臨みました。

初めに、笠井謙次医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり、代表者へStudent Doctor証書が授与されました。引き続き、鈴木耕次郎教務部長始め、4名の臨床医学系教授から学生一人ひとりにStudent Doctor証書とワッペンが授与されました。

次いで、祖父江元 学長、道勇学病院長、井上里恵看護部長から祝辞があり、愛知医科大学同窓会愛橋会の福澤嘉孝理事長、昨年度に本学を卒業し研修医1年目の竹本慧奈医師からも激励の言葉がありました。



学生宣誓文を読み上げる近藤さん

最後に、4学年次生代表の近藤竜徳さんが学生宣誓文を読み上げました。この宣誓文は、これから臨床実習に臨むに当たっての心構えなどを学生全員で話し合って作成したものであり、自分たちで考え、言葉にすることで、自らの臨床実習への意識付けや行動規範とするものです。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底し、事前申込制での保護者の参列、及び参列いただけなかった方々向けに、YouTubeを利用したライブ配信が実施され、当日の様子をお伝えしました。

令和4年度臨床実習前OSCE実施

今年度の客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）は、昨年に引き続きコロナ禍での実施となり、COVID-19感染対策を行いながら令和4年9月10日（土）に4学年次生を対象に実施されました。

臨床実習前OSCEは、臨床実習における医学生として適切な知識と技能・態度を有しているかどうかを評価する試験です。この試験は、令和5年度から公的化試験となり、この試験に合格していることが、臨床実習に進むに当たり必要になるだけでなく、国家試験を受験する際の要件にもなっています。今年

度は、公的化試験前のトライアル試験として実施され、本学は公的化後を見据えて、指定された10課題全てを実施（昨年までは6課題）しました。

大学本館セミナー室やシミュレーションセンターなど学内の施設を活用し、10課題を1日で実施することができましたが、一度に多くの評価者・模擬患者・運営委員を確保する必要があり、運営上の課題も浮き彫りになりました。公的化後、評価者は全て認定評価者である必要があり、学内の評価者養成が急務です。教職員の皆さまの一層のご協力が必要となりますので、よろしくお願い致します。

令和4年度医学部早期体験実習報告

科目責任者 早稲田 勝久

科目コーディネーター 船木 淳

医学部では、1学年次に早期体験実習としてシミュレーション実習、看護体験実習及び臨床科見学実習を各1週間実施しています。昨年度までは、COVID-19の影響でオンラインでの履修や実習期間の短縮で対応せざるを得ませんでした。今年度は、COVID-19が若干落ち着いていたこともあり、学内・学外の臨床の方々のご協力のもと、予定通り実施することができました。医学生としての感染予防もしっかり意識し、事前に感染対策演習を十分に行い実習に臨みました。

今回の早期体験実習では、医療現場に出て患者・家族とコミュニケーションを図り、病院内や地域の診療所等で医師や多職種の患者・家族への対応を見学・体験しました。5月下旬に行われた早期体験実習時の振り返りでは、主語が「自分」になっていましたが、今回の実習では「患者・家族」を主語にした振り返りができており、医学生としての自覚が徐々に芽生えてきた印象です。

令和4年度秋の交通安全講習会開催

令和4年10月18日（火）午後6時から、医学部及び看護学部の学生を対象に、秋の交通安全講習会がオンラインにより開催され、両学部合わせて約100名の学生が参加しました。

講師をお願いした愛知警察署交通課交通総務係地田警部補から、愛知県内の交通死亡事故の事例紹介があり、この秋季は午後5時から午後7時までの間に事故が多発していること、死者の8割以上が高齢者であること、歩行者の道路横断中の事故が多発しているとのことでした。運転中は一瞬の気の緩みが命取りとなるため、集中して運転するよう注意喚起がありました。

また、本学でも大きな問題となっている駐車違反や違法駐車についてお話いただきました。駐車違反や違法駐車をすると、交通事故の原因となることに加えて交通の流れが悪くなり渋滞が発生し、救急車やドクターカーなどの一刻を争うような緊急車両



地田警部補によるオンライン講習会の様子

に対する通行妨害や、バスの運行の遅れにもなってしまいうため、絶対にしないよう注意喚起がありました。

講習会終了後には、交通安全に対するWebテストを全25問実施し、「飲酒運転は、車両同乗者への罰則がある」等の交通規則の確認が行われました。今後も学生一人ひとりが安全運転への意識を高めることができるように、引き続き啓発活動を続けて参ります。

第47回愛知医科大学医大祭「イロイロトリドリ」

令和4年10月29日（土）・30日（日）の2日間にかけて第47回愛知医科大学医大祭が開催されました。

今年のテーマは「イロイロトリドリ」となりました。多様性が尊重される現在、分け隔てなく「色々な方々が楽しく参加し、医大祭が「色とりどり」に彩られてほしいこと、コロナ禍でまっさらになった伝統や文化を、私たち個々の「色」で一から「彩りたい」という思いからこのテーマになりました。

普段は勉学に励み、日々努力し続けている学生たちが、3年ぶりとなる医大祭で自己や他者を楽しませることができる機会を目標に、イベントが企画されました。

当日は、地域住民を始め多数の方に足を運んでいただき、誠にありがとうございました。

【イベント概要】

☆ 期間中開催

- ・ 模擬店（11店舗）
- ・ 医学ラボ
- ・ フリーマーケット
- ・ フォトスポット

☆ 10月29日（土）

- ・ 野外ステージ（軽音ライブ、漫才）
- ・ 球技大会（サッカー、ソフトボール）

☆ 10月30日（日）

- ・ 野外ステージ（軽音ライブ、アンサンブル同好会演奏、のど自慢、ビンゴ大会）
- ・ eスポーツ大会
- ・ 球技大会（サッカー、ソフトボール(エキシビジョンマッチ)

医大祭に寄せて

実行委員長 医学部3学年次生 加倉井 翔多

今回の医大祭のテーマは「イロイロトリドリ」でした。医大祭を経験したことがない学生たちではほぼ一から作っていったことを真っ白なところから新しく「色」が生まれてきたというイメージとし、今年は様々な企画で学生のみならず教職員や地域の方々に参加していただくことで、その人たちの個性を「色々な色」で表し、そして、参加してくださった人たちによって医大祭が「色とりどり」に彩られてほしいという願いを込めてこのテーマに決めました。

今年の医大祭は、有名人を呼ばず、学生主体でやっていくという方針で様々な企画が行われました。その中でもフリーマーケットや模擬店、今年から行われた医学ラボには開催が急に決まったにも関わらず多くの地域の方々にご参加いただき、学生と地域の方々が医大祭を彩ることができたと感じております。また、ソフトボール大会では、職員のチームにも参加していただき、普段にない交流もすることができました。3年前の第46回医大祭に倣い野外ステージを設置し、軽音楽部によるライブなどを行い、新しい医大祭を作りあげる一方で、先輩たちが作り上げてきたものも



今年から行われた医学ラボの様子

受け継ぎました。

最後になりましたが、今年はコロナ禍の関係もあり、急遽開催が決定した第47回医大祭が無事成功に終わりましたのも、多くの方々のご尽力があつてのことでした。この場をお借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



令和4年度医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉学態度等が他の模範となる学生に対して、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

今年度の表彰式は、感染対策を考慮して2回に分けて実施され、令和4年10月11日(火)及び13日(木)に大学本館711特別講義室において、11日が2～4

学年次生各5名、13日が5・6学年次生各5名を対象に行われました。表彰式では、笠井謙次医学部長から表彰状及び記念品が表彰者に授与されるとともに、「引き続き学業・クラブ活動を頑張ってください、他の学生の見本となってください。」と期待の言葉がかけられました。



2～4学年次生の表彰者



5・6学年次生の表彰者

大学院医学研究科学生表彰（優秀論文賞）



大学院医学研究科では、学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、内科学講座（血液内科）の高見昭良教授から、中村文乃氏【写真】（臨床医学系内科学専攻）の学位論文について推薦があり、選考の結果「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

中村氏は、平成30年大学院博士課程に入学し令和4年3月に卒業しました。眼前の患者を救う情熱や真理への探究心は誰よりも強く、柔軟な発想力と高い問題解決能力、人格を有し、皆から慕われています。今回中村氏は、抗ミトコンドリア薬が骨髄腫細胞に対する抗体依存性抗腫瘍活性を高めることを初めて見だし、難治骨髄腫に対する新規治療法開発に貢献されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

看護学部体験講義開催

令和4年8月1日（月）に愛知県立天白高等学校から高校生6名（2・3年生）及び教員1名が来学し、看護学部体験講義が開催されました。高校生の中には、1年生の時から本学部の体験講義に毎年参加している学生が複数名いました。

当日は、坂本真理子看護学部長からのあいさつ後、公衆衛生看護学の若杉里実教授から学部紹介と「地域で活躍する看護職」をテーマとした模擬講義が行われました。講義では、看護師・保健師・助産師それぞれの仕事についての説明と、健康的な生活を支える地域の看護職の取り組みについての説明があり、高校生の皆さんは理解を深めていました。その後、ドクターヘリの見学が行われ、間近で見るドクターヘリの迫力に高校生の皆さんは圧倒されているようでした。

参加された高校生の皆さんからは、「地域看護についての講義が分かりやすく、とてもためになりま



講義を受ける高校生の皆さん

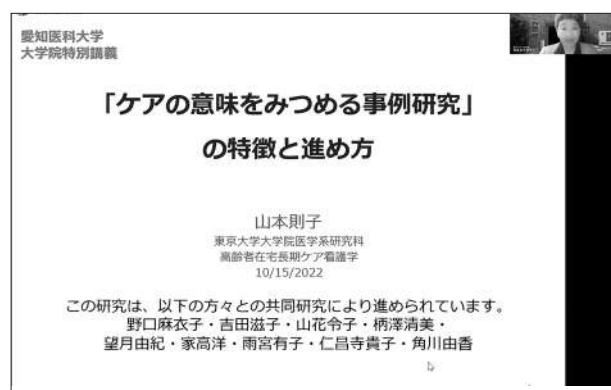
した。」「実習室のベッド数が他大学に比べ充実していると思いました。」「大学と病院が隣接し、実習にスムーズに行くことができることが良いと思いました。」「実際にドクターヘリ見学をして、とても魅力を感じました。」など多数の感想が寄せられ、参加者の皆さんにとって貴重な体験を通してとても有意義で充実した一日になったことと思われます。

看護学研究科特別講義開催

令和4年10月15日（土）午後1時30分から、東京大学大学院医学系研究科高齢者在宅長期ケア看護学の山本則子教授を講師にお招きし、「ケアの意味をみつめる事例研究」のテーマで、大学院看護学研究科特別講義がオンラインにて開催されました。【写真】

看護という対人援助実践の知を創り共有するためには、事例研究でなければならないこと、実践知をことばにすること、そのことばは、語り合いから、看護行為の「意味」、「キモ」、「コツ」を端的に示すことば＝「キャッチコピー」をつけ、生き生きと記述していくことが必要であることをお話いただきました。更に、事例研究の学術性等の見解をお話いただきました。

参加者からは、「事例研究は難しく、自己満足になりやすいというイメージでしたが、自分の看護を



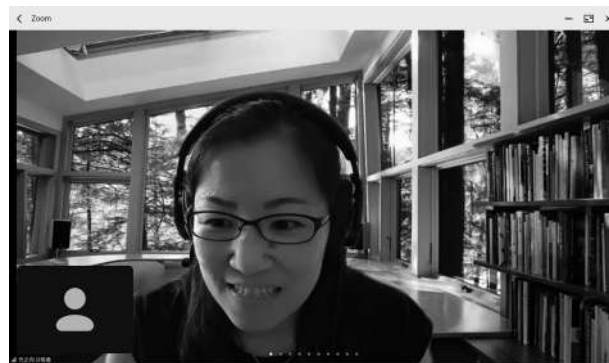
振り返る大切さと他の看護職の看護を変える可能性があるということから、取り組んでみたいと思いました。」「言語化できていないかもしれない看護実践の体験を、言語化し学術的に残していく意味を感じました。」などの感想があり、『私たちの看護実践をことばにしたい!』と心から思える講義となりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 特別セミナー開催

令和4年9月3日（土）に「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）支援における看護師の役割」と題した特別セミナーがオンラインで開催され、152名の参加がありました。講師には京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端基盤看護科学講座看護倫理学分野の竹之内沙弥香准教授をお招きしました。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは、「将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのこと」（日本医師会HP引用）を指しており、竹之内准教授は、アメリカ留学中にACPを学び、現在はACPに関わる看護実践、研究、教育の第一線で活躍されています。

セミナーでは、初めに医療チームがACPの正確な定義を共有することの重要性を確認しました。そして、ACP支援をいつ、誰が、どのように行うのかについてエビデンスに基づく知識を学び、ACP支援に向けた患者や家族との話し合いのための具体的な技術を紐解きました。セミナーを通して、ACPは看護職者の身体的、精神的、社会的な理解



意見交換を行う竹之内准教授

及びコミュニケーションを介した患者さんとの信頼関係形成を基盤とすることから、看護職者はACPに関して重要な役割を担っているという理解をすることができました。

また、透析患者、慢性心不全患者、重症心身障害児などの事例について、チャット機能を用いた活発な質疑があり、竹之内准教授自身の経験も交えた意見交換が行われました。

セミナー後のアンケートでは、「分かりやすい事例で日々の悩みを解消できた。」「チャットでの質問にその場で答えていただき、学びが深まった。」等の感想が多数寄せられ、盛況のうちにセミナーは終了しました。

令和4年度個人情報保護に関する講習会開催

令和4年9月14日（水）午後5時45分から大学本館たちばなホールにおいて、医療情報部の深津博部長を講師とし、令和4年度個人情報保護に関する講習会が開催されました。

今年度個人情報保護法が改正施行され、個人情報保護制度と個人情報保護法が定める管理要件の見直しによって、今回は大きな変更となりました。また、今年度の診療報酬改定において、本院が算定し

ている診療録管理体制加算の要件として、情報セキュリティに関する研修を行っていることが追加要件となっています。

当日の講習会では、前半に個人情報保護制度の改正点、後半は他の医療機関でも被害が出ているランサムウェア感染防御についての講習が行われ、病院職員が個人情報保護と情報セキュリティについて認識の向上につながる機会となりました。

マネジメントラダー・スペシャリストラダー 認定証交付式挙行

令和4年10月4日（火）午前9時30分から中央棟3階共同カンファレンスルームにおいて、マネジメントラダー及びスペシャリストラダー認定証交付式が執り行われました。

平成28年度にマネジメントラダーを導入し、7年目となりました。マネジメントラダーは看護管理者の能力段階を示したものです。今年度は、マネジメントラダーⅣの3名を含め、計7名が認定されました。看護管理者は、常に変化を恐れず、社会のニーズに対応した変革が求められます。院内のチーム医療に留まらず、地域全体の看護の質の向上の要となるように効果的な人材育成ができるとともに、自己の能力開発に邁進できることなど発展的に尽力されることを期待しています。

また、スペシャリストラダーは、専門看護師・認定看護師等の高度専門職種的能力段階を示すものであり、令和元年に始まり4年目となります。今年度は、スペシャリストⅣの1名を含め、計6名が認定されました。先見性と広い視野を持ち、専門性を発揮して組織横断的に活動し、更にリーダーシップを発揮して地域へと発展的に活躍していくことを期待しています。



マネジメントラダー認定者



スペシャリストラダー認定者

学生アルバイト「愛Crew」導入協力者の表彰

働き方改革によるタスク・シフト／シェアの推進に向け、看護師の役割拡大が重要視されています。看護業務の負担軽減と人材育成を目的に、令和3年7月から医学生・看護学生によるアルバイト「愛Crew」を導入し、一年が経過しました。導入当初は、コロナ禍であり物品補充や清掃といった周辺業務を行っていましたが、現在では、看護師とともに体位変換、ストレッチャー移送、おむつ交換といった直接ケアへ業務拡大し、より実践技術を磨く機会になっています。

導入に当たっては、看護部の倉科まや看護師がアルバイト募集のポスター案、百々邦剛看護師長から「愛Crew」名称についてアイデアの提供をいただきました。また、看護の質管理委員会のメンバーには、



協力者への感謝状と記念品の贈呈

業務内容の検討などをご協力いただきました。そのため、導入一年を記念して令和4年9月に協力者に対し感謝の気持ちを込めて、感謝状と記念品が贈られました。

愛知医大サービス株式会社 スターバックスコーヒー愛知医科大学店グランドオープン



愛知医大サービス株式会社 取締役・事業本部長 服部 憲政

令和4年9月26日(月)にスターバックスコーヒー愛知医科大学店(以下、スタバ愛知医大店)が華やかにグランドオープンしました。職員、学生の福利厚生施設として利用されるほか、病院の患者さんや付き添いの方々の憩いの場所として、更には地域の皆さまの交流の場として幅広く利用していただくことを目指しています。

スターバックスの本学への誘致は、愛知医科大学創立50周年記念事業の一つとして計画されたものです。立地の特徴としては、前方に広がる立石池が開放感に溢れ、四季折々の自然を楽しめる抜群の借景となっており、春には桜が咲き誇る絶景となることが予想されます。



テラス席から臨む開放感に溢れた景色

ここからは、スタバ愛知医大店グランドオープンまでの「実録スタバ物語」についてご紹介致します。ことの始まりは、遡ること3年半前の平成31年4月に愛知医大サービス株式会社の役員会において、スターバックスを大学に誘致してはどうかという雲を掴むような話が出たところからです。ダメ元でスターバックス側にコンタクトをとったところ、前向きな話し合いができ事業プランが検討されることとなりました。当初は、既存の立石プラザ内の一部を改修する計画でしたが、立石プラザ北側の空き地(立石プラザと横並び)に独立店舗として出店することに変更するなど、構想が日々進展していきました。店舗のイメージとしては「日本一美しいスタバ」と言われる富山県環水公園店をモデルとしました。一方、出店の協議に入った矢先、令和2年3月頃から新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く出始めたことで事業は一時中断となり、雲行きが怪しくなってきました。それでも関係者の熱い思いで諦めることなく事業プランの見直し等の検討を行いながら、準備を進めて参りました。

このような状況の中、大きなターニングポイントが二つありました。一つ目は、本学祖父江元 理事

長からのGOサインです。本当に誘致が必要なのかどうか冷やかな空気も流れ始める中、令和2年12月に新プランをスターバックス担当者とともに祖父江理事長へ熱い思いを込めて説明したところ「よし、やろう」との回答をいただき、更に立地について現在のスターバックス建設地(立石プラザ前)を提案いただいたことで、物語は一気に加速し始めました。

二つ目は、秀逸な建築デザインです。デザインを決める上で、立地条件には明と暗があり、明は立石池の絶景、暗は正面(長久手市道側)が西向きのため日差しがとても眩しく、開放的なデザインとするには無理があるという点でした。暗中模索の中、令和3年8月にスターバックスNo.1の建築デザイナーの方が現地を視察し、立地条件の明と暗を活かした最高のデザインをプレゼントしてくれました。これがスタバ愛知医大店の原型となります。一例を挙げると、問題であった西日を利用する方法として、店舗西側の上部に明かり取りの窓を設け、西日の光が天井(杉の木張)へグラデーションのように差し込むような仕掛けを施すことで、夕日が大変きれいに見ることができます。その他にもこだわった点が多くつかありますので、是非皆さま探してみてください。



極上のテラス席と秀逸な建築デザイン

その後、いよいよスタバ愛知医大店の建築がスタートすることとなりますが、苦難は更に続き、想定外の費用増(土壌汚染調査、設備盛替工事、スターバックス仕様、資材の高騰等)に伴う予算対応に東奔西走の日々が続きました。特に、本学施設・建設室、管財・契約室の職員には大変な苦勞をおかけし、ようやく令和4年4月から着工することができました。これも一重に関係者の方々の熱意、ご協力の賜物と深く感謝しております。

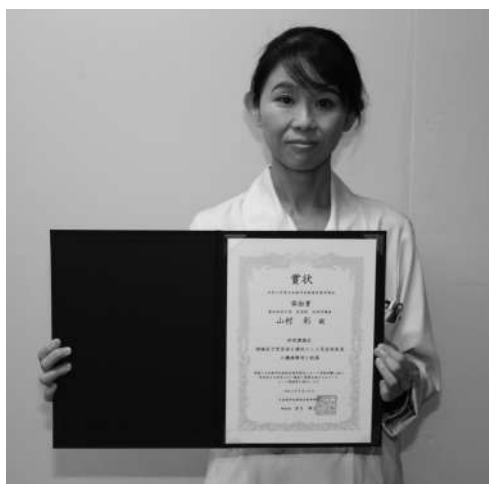
このスタバ愛知医大店が皆さまにとって憩いの場となり長く愛されるとともに、愛知医科大学及び愛知医科大学病院のセレクト・サポートになれば幸いです。

生理学講座 山村 彩講師 令和3年度日本薬学会薬理系薬学部会激励賞受賞

生理学講座の山村彩講師【写真】が、令和4年8月26日（金）に、静岡県立大学で開催された生体機能と創薬シンポジウム2022静岡において、「令和3年度日本薬学会薬理系薬学部会激励賞」を受賞されました。

これは、日本薬学会薬理系薬学部会において、論文「増殖因子受容体を標的とした炎症性疾患の機構解明と創薬」が、学術研鑽に励み将来性のある研究として優秀な業績を挙げたことについて高く評価されたものです。

受賞された山村講師からは、「この度は令和3年度日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。これまで研究を支えてくださった先生方に御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、肺



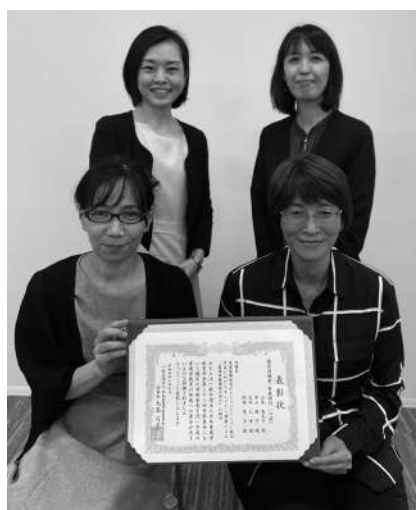
高血圧症の新規治療薬の開発を目指し、より一層の研鑽を重ねて参りたいと考えております。」との感想がありました。

看護学部基礎看護学領域教員 日本看護学教育学会 第32回学術集会発展部門優秀演題賞受賞

看護学部基礎看護学領域の山本恵美子准教授、中山綾子助教及び志水己幸助教並びに臨床実践看護学領域の阿部恵子前教授【写真】が、令和4年8月6日（土）及び7日（日）にWeb開催された日本看護学教育学会第32回学術集会において、発展部門「優秀演題賞」を受賞されました。

これは、日本看護学教育学会第32回学術集会における初めての試みで、看護学教育の発展に向けた研究の活性化を目指すことを意図して設けられたものであり、優秀演題賞は発展部門と育成部門に分かれています。今回、発展部門において口演「看護基礎教育のコミュニケーション能力育成に向けたオンライン講義による『看護面接場面の学び』の検討」が、今後の看護学教育の発展に寄与する口演として高く評価され選定されたものです。

受賞者を代表して山本准教授から、「この度は、



栄誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。演題査読委員の先生方から評価いただいた研究の全ては、共同研究者のご指導・ご協力のおかげだと感謝しております。これまで同様、研究・教育・社会貢献と一層邁進する所存です。今後ともご指導をよろしくお願い致します。」との感想がありました。

卒後臨床研修センター 研修医2年目「卒研。」制作委員会 第54回日本医学教育学会大会医学教育アカデミー賞優秀賞受賞

卒後臨床研修センターの臨床医2年目「卒研。」制作委員会【写真】が、令和4年8月5日（金）及び6日（土）にGメッセ群馬で開催された、第54回日本医学教育学会大会において、「医学教育アカデミー賞優秀賞」を受賞されました。

これは、研修医2年目の有志「卒研。」制作委員会が、研修医1年目に向けた勉強会のために作った動画教材を編集して応募した「研修医に襲来した最強の難題！鑑別困難な患者さんを救え！」が、同学会において高く評価されたものです。

受賞された「卒研。」制作委員会からは、「この動画制作のために、夜に外来の部屋を快く貸して下さった小児科の指導医とスタッフの皆さま、ありが



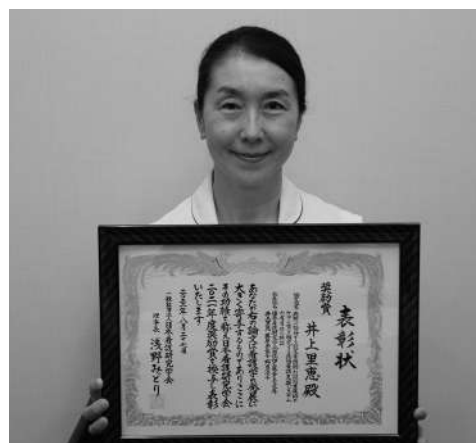
とうございました。今後も、研修医の皆で教え合いながら学び、成長していきたいと思います。」との感想がありました。

看護部 井上 里恵看護部長 一般社団法人日本看護研究学会奨励賞受賞

看護部の井上里恵看護部長【写真】が、令和4年8月27日（土）に、愛媛県松山市総合コミュニティセンターにてハイブリッド開催された日本看護研究学会第48回学術集会において、「一般社団法人日本看護研究学会奨励賞」を受賞されました。

これは、日本看護研究学会誌に筆頭者として掲載された、病院に勤務する認定看護師（WOCN）が、遠隔で訪問看護師の支援を行うことで、訪問看護師が利用者に実施するケアの質にどう影響するのかを混合研究法（mixed-method-approach）で分析した論文「Usefulness of a Remote Nursing Support System in Which Certified Nurses in Japanese Hospitals Complement the Care of Visiting Nurses」の意義が高く評価されたものです。

受賞された井上部長からは、「この論文は、平成27年に手掛けた研究です。COVID-19により今では



当たり前となった遠隔医療・看護ですが、高度急性期病院に所属する認定看護師等の人的資源を活用し、地域医療に貢献したいとの思いで進めた研究です。このような賞をいただけたのは、皆さま方のご支援、ご指導のおかげです。」との感想がありました。

中央放射線部 大澤 充晴主任 日本心血管インターベンション治療学会 第47回東海北陸地方会優秀演題賞受賞

中央放射線部の大澤充晴主任【写真】が、令和4年10月21日（金）及び22日（土）に、名古屋コンベンションホールで開催された日本心血管インターベンション治療学会第47回東海北陸地方会において、優秀演題賞を受賞されました。

これは、大澤主任が同学会にて発表された演題「Spider viewにおける最適角の検討～被ばく、LMT分岐部評価の両立～」が優れたものとして高く評価されたものです。

受賞された大澤主任からは、「この度は、荣誉ある優秀演題賞をいただき、大変光栄に存じます。これも一重に多くの先生方のご協力及びご指導のおかげと深く感謝しております。今後も、なお一層精進



していく所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。」との感想がありました。

優良自動車運転者表彰

毎年春に、模範的な運転を行い、交通の安全確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は、令和4年9月26日（月）に松尾高嗣総務部長【写真】が表彰を受けました。この表彰は、運転士の交通安全に配慮し、自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

松尾部長からは、「この度、荣誉ある表彰をいただき光栄に思います。これからも、公用車・バス運



転士の交通安全への配慮を徹底するとともに、自身の安全運転についても心掛けていきたいと思えます。」との感想がありました。

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



今枝 佑輔

学位授与番号 甲第632号
 学位授与年月日 令和4年9月8日
 論文題目：「Randomized Controlled Trial of Oral Tranexamic Acid Intervention for the Prevention of Type II Endoleak after Endovascular Abdominal Aneurysm Repair（無作為比較試験による経口トラネキサム酸の腹部大動脈瘤血管内修復術後タイプIIエンドリーク抑制効果の検討）」



速水（浅野） 栄水

学位授与番号 甲第636号
 学位授与年月日 令和4年9月29日
 論文題目：「Clinical parameters correlated with the psoas muscle index in Japanese individuals with type 2 diabetes mellitus（日本人2型糖尿病患者の大腰筋指数と各種臨床因子との関連についての検討）」



竹下 覚

学位授与番号 甲第633号
 学位授与年月日 令和4年9月30日
 論文題目：「Thrombocytopenia and insufficient thrombopoietin production in human small-for-gestational-age infants（small-for-gestational-age児における血小板減少とトロンボポエチン産生低下）」



田中 章郎

学位授与番号 甲第637号
 学位授与年月日 令和4年10月27日
 論文題目：「Association of alcohol consumption with the incidence of proteinuria and chronic kidney disease: a retrospective cohort study in Japan（アルコール摂取と蛋白尿および慢性腎臓病の発生率との関連：日本における後ろ向きコホート研究）」



長尾 一寛

学位授与番号 甲第634号
 学位授与年月日 令和4年9月30日
 論文題目：「The Modified eCura System for Identifying High-Risk Lymph Node Metastasis in Patients with Early Gastric Cancer Resected by Endoscopic Submucosal Dissection（内視鏡的粘膜下層剥離術により切除された早期胃癌患者のリンパ節転移リスクを評価するためのModified eCura System）」



大西 知広

学位授与番号 乙第419号
 学位授与年月日 令和4年9月8日
 論文題目：「Prevalence and clinical outcomes of triglyceride deposit cardiomyovascularopathy among haemodialysis patients（血液透析患者における中性脂肪蓄積心血管症の有病率と臨床転帰について）」

◆大学院看護学研究科



横山 優樹

学位授与番号 甲第635号
 学位授与年月日 令和4年9月29日
 論文題目：「Risk factors of first recurrence of *Clostridioides difficile* infection（クロストリディオイデスディフィシル感染症の初回再発リスク因子の検討）」



徐 彤彤

学位授与番号 第160号
 学位授与年月日 令和4年9月22日
 論文題目：日本に在留する成人期にある中国人のヘルスリテラシーとその関連要因に関する分析

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。(敬称略)



ウラジミール バリック
Vladimír Balík

国 籍：スロバキア
現 職：ミハロフツェ世界保健病院
脳神経外科医師

受入講座：脳神経外科学講座

研究期間：R4.9.3～R4.11.30（3か月）

研究課題：脳腫瘍に対する神経内視鏡手術の学習



ライハヌル イスラム シムル
Rayhanul Islam Shimul

国 籍：バングラデシュ
現 職：Eukaryotic Gene
Expression and
Function (EuGEF)
Research Group 研究員

受入講座：加齢医科学研究所神経IPS細胞研究部門

※R4.9.30までは内科学講座（神経内科）

研究期間：R4.9.9～R5.3.31（7か月）

研究課題：運動ニューロン疾患における神経筋病
態の解明

研究課題「悪性化シグナルに関わる新規分子を標的としたがん治療薬の探索」が国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）創薬総合支援事業（創薬ブースター）支援決定



国立研究開発法人日本医療研究開発機構が実施する創薬総合支援事業（創薬ブースター）について、本学医学部生理学講座の佐藤元彦教授【写真】の研究課題「悪性化シグナルに関わる新規分子を標的としたがん治療

薬の探索」が支援対象として選定され、同機構と共同研究契約及び委託実験調査契約が締結されました。

この事業は、大学や公的研究機関に所属する研究者が保有する、実用化の可能性が高いと判定された創薬シーズ（新標的・新物質）を支援対象とし、同機構の創薬事業部が策定した知財戦略及び研究戦略に基づき、創薬支援ネットワーク構成機関（理化学研究所、医薬基盤・健康・栄養研究所、産業技術総合研究所等）が保有する創薬技術や設備等を活用し、医薬品としての実用化に向けた実験や非臨床試験等を切れ目なく支援するもので、得られた成果については、確実に医薬品としての実用化につなげるため、創薬事業部による製薬企業等への導出等に係る支援を受けることとなっています。

佐藤教授の研究課題は、がんの悪性形質を担うシグナル分子を創薬標的とし、がんにおいて高発現で認められ、発現レベルが生命予後と相関することが示されている標的シグナル分子と生体内因子との相互作用を阻害することにより、がん細胞の増殖能・悪性形質を抑制することを創薬コンセプトとしており、独自性及び革新性の高い研究成果（創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス）に基づく研究であるとして、科学的、技術的な優位性があるとの評価を同機構から受けています。

研究課題が選定された佐藤教授からは、「この度、私の創薬シーズが医薬品としての実用化を目指すこの事業に選定され、ご支援ご指導いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。特に、分子標的医薬寄附講座の梅澤一夫教授、名古屋大学を中心とする中部先端医療開発円環コンソーシアムの先生方にはひとかたならぬご支援を賜りました。難治性のがん、特に、前立腺がんにご苦しむ患者さんの光明となるべく、また皆さまのご期待にお応えすべく、今後一層、研究にまい進していく所存です。」との感想がありました。

研究課題「未感染肝細胞への感染制御によりHBV排除を可能にする新規薬剤開発」が国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）肝炎等克服実用化研究事業に採択



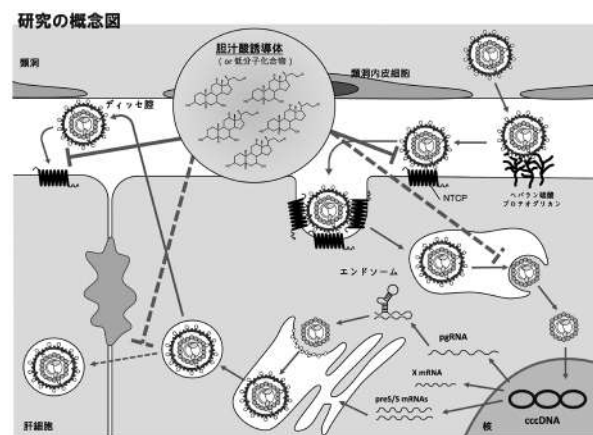
この度、AMED肝炎等克服実用化研究事業・B型肝炎創薬実用化等研究事業に我々の新規研究課題が採択されました。今後3年間B型肝炎ウイルス（HBV）に対する新規抗ウイルス剤の研究開発を継続することができ、改めて身の引き締まる思いです。

今回採択された研究課題は、これまでの我々の研究で発見した特殊な胆汁酸が持つHBVに結合して肝細胞への侵入を防ぐ作用を応用するものです。この作用を更に安全に強力にすることでHBVの肝細胞への侵入を完全に防御することを目標としています。令和2年にノーベル医学生理学賞がC型肝炎ウイルス（HCV）の研究者に贈られたことをご存知かと思いますが、これまでの医学研究の成果によりHCVに対しては、最短8週間の内服治療によりおよそ99%の患者さんからウイルスを排除することが可能になりました。しかし、HBVに関しては、現在のところ一度肝細胞に感染するとウイルスを排除することができません。これは、HCVは肝細胞に感染しても核の中に侵入しないのに対して、HBVは核の中に侵入して極めて頑丈な形（cccDNA）として長期間残存するためです。このことは、化学療法や免疫療法により免疫の力が抑えられるとHBVの再活性化が起きる原因にもなります。このように完全排除が困難なHBVですが、HCVに対する治療薬の有効性が知られるにつれて、患者さんからのHBV排除を可能にする新薬開発への期待が高まっています。我々の研究目標のように肝細胞への侵入を完全に防御する薬剤が開発できれば、感染予防として使用できるだけでなく、持続感染者のHBV完全排除に繋がるものになります。また、この研究を応用すると新型コロナウイルスを始めとした他のウイルスに対しても細胞への侵入を防御する新しいタイプの治療薬開発に繋がる可能性があります。

内科学講座（肝胆腸内科）・教授（特任） 伊藤 清顕

これまで平成29年から令和4年までの5年間同事業の研究費によりHBVに対する新規の抗ウイルス剤開発を進めてきました。今回、その成果を評価していただき新たな課題名で研究継続を認めていただいたものと思います。前回、平成29年に初めてAMED研究事業に採択されたときには、他の大型のAMED研究事業と比較して入門編とも言える小型の研究費からのスタートでした。そして、開始時の研究期間は3年間であり、研究成果により更に2年間の研究延長が認められるというものでした。我々の研究グループは、とにかくこの2年間の延長を認めてもらおうと平成29年から必死で研究を進めました。実際、我々が採択されたカテゴリーには七つの研究グループがあったのですが、2年間の延長が認められたのは、我々を含め2グループのみという厳しいものでした。このような厳しい選別の中、何とか5年間の研究を完遂することができ、また今回、更に3年間の研究の継続を認めていただきました。これも、この研究を手伝ってくれているすべての分担研究者や研究協力者の協力のお陰だと思っています。そして、実験スペースに関してご差配いただきました祖父江元 理事長及び島田孝一法人本部長のお陰でもあります。この場をお借りして皆さまに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

研究内容に関しまして次のとおり、概念図を示します。



研究課題「高活性な改良型CRISPR/Cas9ゲノム編集システムの研究開発」が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）官民による若手研究者発掘支援事業（若サポ）に採択



国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施する官民による若手研究者発掘支援事業（若サポ）について、

本学医学部生化学講座の兵頭寿典講師【写真】の研究課題「高活性な改良型CRISPR/Cas9ゲノム編集システムの研究開発」が採択され、助成金の交付決定を受けました。

この事業は、実用化に向けた目的志向型の創造的な基礎又は応用研究を行う大学等に所属する若手研究者を発掘し、若手研究者と企業との共同研究等の形成を促進するなどの支援をすることにより、次世代のイノベーションを担う人材を育成するとともに、我が国における新産業の創出に貢献することを目的としています。兵頭講師の課題は、「マッチングサポートフェーズ」として、企業との共同研究等の実施を希望する若手研究者が、産業界が期待する

目的志向型の創造的な基礎又は応用研究を実施するもので、企業との共同研究等の機会を創出するためのマッチング支援を受け、この事業の次の段階である「共同研究フェーズ」における企業との共同研究等の実施を目指すこととなります。

この研究課題では、CRISPR/Cas9の分子改変によってDNA切断効率を向上した改良型ゲノム編集システムの開発を目指します。それによってヒト細胞、哺乳類、植物などのゲノム編集を効率化し、ゲノム編集技術のバイオ産業や医療への応用を加速することを将来的な目標としています。

研究課題が採択された兵頭講師からは、「この度、私の研究テーマが企業との共同研究と実用化を目指す本事業に採択され、ご支援ご指導いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。皆さまのご期待にお応えし、企業との共同研究に結びつくよう、今後、一層研究にまい進していく所存です。」との感想がありました。

令和5年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数（件）	申請金額（千円）
特別推進研究	1	254,946
学術変革領域研究（A）（公募研究）	2	6,000
基盤研究（A）（一般）	1	9,999
基盤研究（B）（一般）	13	105,178
基盤研究（C）（一般）	103	185,244
挑戦的研究（開拓）	1	3,947
挑戦的研究（萌芽）	10	19,979
若手研究	46	79,912
合計	177	665,205

※令和4年10月5日時点での数字を掲載

※申請金額は令和5年度の申請額

研究助成等採択者

◇日本骨髓腫患者の会

2022年度多発性骨髄腫研究助成

・氏名 花村一朗（内科学講座(血液内科)・教授(特任)）
研究題目 RAS変異骨髄腫に対する新規標的治療薬の開発
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人愛知腎臓財団

令和4年度研究助成

・氏名 萩田淳一郎（腎臓・リウマチ膠原病内科・助教(医員助教)）
研究題目 アンチセンスオリゴヌクレオチド（ASO）を用いた腎疾患の治療法の開発
助成金額 500,000円
・氏名 雫真人（腎移植外科・助教(医員助教)）
研究題目 免疫グロブリン療法によるアロ・感染免疫調節の理論的基盤研究
助成金額 200,000円

◇一般社団法人日本臨床腎移植学会

2022年度臨床研究奨励制度

・氏名 雫真人（腎移植外科・助教(医員助教)）
研究題目 免疫グロブリン療法によるアロ・感染免疫調節の理論的基盤研究
助成金額 500,000円

◇一般社団法人日本血液学会

2022年度研究助成

・氏名 小川実加（中央臨床検査部・講師）
研究題目 血友病関節症の解明と新規治療法開発：骨芽細胞，MSC，メトホルミンに着目して
助成金額 300,000円

◇公益財団法人日東学術振興財団

第39回（2022年度）研究助成

・氏名 家崎高志（生理学講座・助教）
研究題目 自己増幅型RNAを用いた膵臓癌治療薬の開発研究
助成金額 1,000,000円
・氏名 名仁澤英里（解剖学講座・助教）
研究題目 ガスクロマトグラフ質量分析計を用いた非アルコール性脂肪性肝炎の超早期における病態メカニズムの解明
助成金額 1,000,000円
・氏名 榊原伊織（生理学講座・講師）
研究題目 運動によって誘導される遺伝子発現機構の解明
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人カシオ科学振興財団

第40回（令和4年度）研究助成

・氏名 池上啓介（生理学講座・講師）
研究題目 緑内障治療に向けた微弱電流刺激による眼球の若返り
助成金額 1,000,000円

◇一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金

令和4年度一般研究助成

・氏名 池上啓介（生理学講座・講師）
研究題目 緑内障時間治療に向けた眼房水産生の概日分子制御機構の全容解明
助成金額 1,000,000円

令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。(金額単位：円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
難治性疾患実用化研究事業	祖父江 元長 祖学	128,700,000	筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotypingの統合解析を通じた治療開発研究
脳とこころの研究推進プログラム	祖父江 元長 祖学	91,000,000	孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究
予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業	天野 哲也 医学部 内科学(循環器内科), 教授	36,297,666	経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発
肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	伊藤 清 顕 医学部 内科学(肝胆膵内科), 教授(特任)	75,400,000	未感染肝細胞への感染制御によりHBV排除を可能にする新規薬剤開発
難治性疾患実用化研究事業	熱田 直 樹 医学部 内科学(神経内科), 特命准教授	11,700,000	筋萎縮性側索硬化症の診療に直結するリアルワールドエビデンスの創出
医療機器等研究成果展開事業 チャレンジタイプ	井上 匡 央 医学部 内科学(肝胆膵内科), 講師	13,000,000	胆管バルーンアブレーションシステムの開発

- ・令和4年10月までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載(変更契約を含む)
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む

令和4年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和4年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)が採択され、次のとおり交付決定がありました。(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
挑戦的研究(萌芽) (基金)	武内 恒 成 医学部 生物学, 教授	2,000	600	損傷神経機能と感覚受容を超回復させるシナプスコネクとAI機械学習解析系の開発
研究活動スタート支援 (基金)	下田 博 美 医学部 糖尿病内科, 助教(医員助教)	1,100	330	アミノ酸利用不均衡と異常スフィンゴ脂質蓄積が糖尿病性多発神経障害に及ぼす影響

- ・令和4年10月31日時点の情報を掲載
- ・課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad(府省共通研究開発管理システム)研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」を基に作成
- ・今年度請求額を記載

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・ 第56回日本脳神経血管内治療学会中部支部学術集会
- ・ 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022
- ・ 第31回愛知眼科フォーラム
- ・ 第4回禁煙推進学術ネットワーク学術会議
- ・ 第66回日本医真菌学会総会・学術集会

【開催日】

令和4年8月6日（土）
令和4年8月27日（土）
令和4年9月4日（日）
令和4年9月18日（日）
令和4年10月1日（土）・2日（日）

【会長等】

宮氏 茂
山村 彩
瓶井 資弘
天野 哲也
三嶋 廣繁

第56回日本脳神経血管内治療学会中部支部学術集会

脳神経外科学講座・教授 宮地 茂

令和4年8月6日（土）正午から午後5時まで、第56回日本脳神経血管内治療学会中部支部学術集会（CSNET）が、愛知医科大学医心館多目的ホールを現地会場とし、Zoomを用いたハイブリッド形式で開催されました。コロナ禍、北陸豪雨の影響などにより現地参加は少なかったものの、合計116名と多くの方々にご参加いただきました。

当日は、16の一般演題のほか、教育セミナーとして順天堂大学脳神経外科の大石英則先生をお迎えし、「脳動脈瘤治療の現況と保険診療－学会に求められるものは何か－」という保険診療の根幹に関わる重いテーマについて、中央審査官のご経験から大変有用なお話をいただきました。会全体として、大きな遅滞やトラブルもなく大変有意義な討論ができ、無事終了することができました。

また、当日の午前中には、血管内治療の中で最もトピックとなっております急性期血栓回収療法の習得と技術向上を目的とした、本学主催で毎年定期的開催の愛知血栓回収療法教育セミナーケースカンファレンスの第7回が併催されました。



会場風景



左から、
大石先生と宮地教授

本学会の開催に当たり、場所の提供を含め、一般財団法人愛知医科大学愛恵会から多大なるご支援をいただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022

生理学講座・講師 山村 彩

令和4年8月27日（土）に、日本薬学会薬理系薬学部会主催で静岡県立大学薬学部の多大なるご厚意により次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022がハイブリッド開催されました。今後、日本が医療分野で世界をリードしていくためには、新しい治療法の確立や優れた新薬の開発を担うべき次世代の薬理学研究者の育成が必要不可欠と考えられます。本シンポジウムでは、次世代を担う若手薬理学研究者や学生に、基礎、臨床、或いはこれらの橋渡し研究を中心に、その研究成果を自由活発に発表・討議できる場を提供したいと考え、企画致しました。

当日の参加人数は185名で、口頭発表（オンサイト）43題、ポスター発表（オンライン）45題の発表があり、Zoomシステムを導入することでface-to-faceでの質疑応答ができ、活発に学会が進行できました。特別講演では、本学の祖父江元 学長から若手薬理



学会運営スタッフ一同

研究者への熱いメッセージを込めて、「神経変性疾患の治療法開発の時代へ」と題した、基礎研究と臨床研究の架け橋となる新薬開発について感銘深いご講演をいただきました。また、大学院生が主体となる大学院生シンポジウム10題を企画し、座長を含め学生が主体となってセッションを進行してくれました。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会、杏林堂薬局を始め、皆さまの多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より深く御礼申し上げます。

第31回愛知眼科フォーラム

眼科学講座・教授 瓶井 資弘

令和4年9月4日（日）に興和株式会社本社ビル（名古屋市中区栄）において、愛知眼科フォーラム第31回大会が開催されました。本学眼科学講座が主催し毎年1回開催している愛知眼科フォーラムは、一般眼科医、視能訓練士に公開している眼科全般の学会です。今年度は、十分な感染対策を講じた上で現地での対面開催とWebでのライブ配信を複合したハイブリッド開催となりました。

特別講演では、群馬大学名誉教授・前橋中央眼科院長の岸章治先生をお招きして、「Pachychoroidの新しい考え方」と題したご講演をいただき、本学近

視進行抑制寄附講座に就任された三木篤也教授（特任）からは、「緑内障診療の昨日・今日・明日」と題した講演が行われました。また、本学眼科学講座と関連病院から18題の一般演題の発表があり、いずれも高度な眼科医療、高い水準の研究を示すもので、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに大会を終了することができました。

最後に、本学会を開催するに際しまして、ご協力いただきました本学関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。

第4回禁煙推進学術ネットワーク学術会議

令和4年9月18日(日)に第4回禁煙推進学術ネットワーク学術会議が開催されました。コロナ禍ということもあり、現地会場をAP名古屋で定員を絞り、リモート登壇・配信を含めたハイブリッド開催と致しました。

禁煙推進学術ネットワークは、日本循環器学会始め日本動脈硬化学会、日本口腔外科学会など非常に多くの学会、所属のドクター、メディカルスタッフの方々に毎年参加いただいております。朝から通常耳なじみのある医学の側面だけでなく、口腔内衛生、産業保健、公衆衛生の面からも多くの演題発表がありました。

また、会の終盤には一般視聴者に向けてYouTube配信を併用した市民公開講座が行われました。「アミューズメントと禁煙」をかねまして株式会社善都の禁煙の取り組み、地域への働きかけ、そして、日本循環器学会公式キャラクターである「すわん君」

内科学講座(循環器内科)・教授 天野 哲也

とのコラボレーションで一般市民の方々への禁煙啓発活動を行いました。禁煙という大きな目標に向け各学会が、そして、市民が協力し合いながら疾患の一次予防、二次予防に多角的に向き合う、そういった働きかけを続けていきたいと考えています。

当日は、全国から現地への200名近い参加者に加え、リモートでの参加者を加えますと400名以上の方々に参加いただき盛会のうちに終わることができました。改めて、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



第66回日本医真菌学会総会・学術集会

第66回日本医真菌学会総会・学術集会は、令和4年10月1日(土)及び2日(日)の2日間にわたり、岐阜県の長良川国際会議場において、本学臨床感染症学講座の三嶋廣繁教授を会長として開催致しました。COVID-19の感染状況を鑑みた結果、現地開催とリモートのハイブリッド形式にて開催致しました。小職の大先輩に当たる伊藤友喜先生が第17回、小職の恩師である野澤義則先生が第41回、岐阜大学病院で一緒に勤務させていただいた北島康雄先生が第51回を岐阜県内でそれぞれ開催されていたことから、私も故郷である岐阜で学術集会を開催させていただきました。

臨床感染症学講座・教授 三嶋 廣繁



日本医真菌学会総会・学術集会は、従来から、医学領域における基礎及び臨床真菌学が主題ではありますが、病原真菌や真菌症に関する唯一の専門学会として、臨床・研究の成果を情報交換することを目

的としており、医学の他に理学、薬学、農学、水産学、獣医学、食品微生物学など極めて多岐にわたる専門領域の研究者にご参加いただいています。医学領域では、臨床医学分野に加え、病理学、薬理学、臨床検査医学、微生物学、免疫学など幅広い視点で、真菌症の臨床研究や基礎研究が行われてきました。近年では、生物学的製剤や免疫制御薬等の使用症例が増加し、真菌症は増加傾向にあるだけでなく、*Candida auris*や*Cryptococcus gattii*などの新興真菌症も出現し、診断法・治療法を含めて、我々が取り組むべき課題は多く残されています。更に、真菌症の中にも医療関連感染対策が必要なものも少なくありません。COVID-19時代においては、COVID-19 associated pulmonary aspergillosis (CAPA) も臨床で、大きな問題になってきています。イサブコナゾール、oteseconazoleなどを始めとする新規の抗真菌薬も開発が進み、上市に近い薬剤もいくつか存在しています。

本学会のテーマは平凡ではありますが、「真菌感染症を多角的に考える」とさせていただきます。

共同プログラム委員長として、金沢医科大学皮膚科学の望月隆名誉教授（表在性真菌症部門）、宮崎大学医学部内科学講座呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野の宮崎泰可教授（深在性真菌症部門）、帝京大学医真菌研究センターの槇村浩一教授（基礎部門）、高知大学医学部臨床感染症学講座（愛知医科大学・客員教授）の山岸由佳教授（臨床検査部門）、東京女子医科大学病院薬剤部の浜田幸宏部長（薬剤師部門）をお願いし、プログラムを企画いただきました。

COVID-19時代を迎え、ますます真菌症への対応を真摯に考える必要性が高まっている中での学術集会には、コロナ禍においても430名を超える参加者が集い、熱い議論もなされたと確信しております。また、岐阜県の長良川河畔で、face to faceの学会が開催できたことに感謝しております。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご支援をいただきましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

「教育・研究最前線」

グローバルな教育と研究を目指して

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

医学教育には医学生への卒前教育，専修医への卒業臨床教育，若手医師への専門教育があり，これらは連続してその時点で必要とする知識，技量を学修する必要があります。放射線医学講座が行っている教育の内容は，主に画像診断，放射線治療，IVRに関してです。

学生教育での画像診断の内容を中心に述べますと，3学年次の臨床講義で画像診断の全般的な知識を座学で理解して，クリニカルクラークシップAで実際に読影端末を動かして画像診断を経験し，クリニカルクラークシップBで読影する疾患，症例数を増やすとともに読影のノウハウを修得できるカリキュラムを組んでいます。また，画像診断は単に疾患の画像を覚えるのではなく，病態から説明することで画像の特徴を理解できるようにしています。充実した医学教育を行うには多くの時間を必要とし，時間を費やした分だけ充実した教育内容になると思っております。クリニカルクラークシップB終了時には，多くの学生が画像に対する苦手意識が無くなったと言ってくれます。また，学生から実習の改善要望点などもヒアリングしています。コメントを教員にフィードバックすることで教員も医学教育に対する関心が深まり，毎年カリキュラムを改善してより良い教育ができるようにも努めています。

【世界に発信する医学研究】

放射線医学講座では研究を行うことを推奨しており，画像診断，放射線治療，IVRの各領域で医局員

放射線医学講座・教授 鈴木 耕次郎

は自主に国内外での学会発表や論文投稿を行っています。研究内容は実臨床に即した内容が多く，その成果は臨床にも役立たせています。日常診療から生ずる疑問点の解明，放射線治療やIVRでの治療成績，新たな診断法や治療法の開発など，その内容は多岐にわたります。また，多施設共同研究にも積極的に参加しています。

論文業績に関すれば，令和4年は英文論文6編，邦文論文3編，令和3年は英文論文8編，邦文論文4編と，毎年コンスタントに行われています。現在進行している研究課題としては，画像診断ではdual energy CTを用いた肺動脈血栓症や肝腫瘍の診断精度向上，前立腺癌のマルチパラメトリックMRI，放射線治療では少数転移巣に対する放射線治療，肺癌の多分割照射，IVRでは薬剤吸着性塞栓物質の開発，血管奇形の治療効果予測などの研究が行われており，これらも早く結果を出して発表していく予定です。

【部署からの一言】

放射線医学講座は医局として医学教育，若手医師の育成に力を入れています。また，診療では病院中央部門として各診療科から依頼された検査，治療が円滑に行えるようにも努めています。医学教育に力を入れることで，スチューデントドクターや若手医師の画像診断能力が向上するのが喜ばしいですし，放射線医学に興味を持つ学生や若手医師が増えることも期待しています。医局員がお互いに刺激し合いながら，診療，教育，研究を楽しく行う講座を目指して日々努力しております。



医局員集合写真



カンファレンスの様子

魅力ある教室を目指して

形成外科学講座・教授 古川 洋志

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

形成外科学教室は、昭和59年に形成外科診療班として皮膚科内に発足し、平成2年に青山久先生が初代の形成外科教授に就任されてから、二代目教授となる横尾和久先生の時代を経て、診療の拡充に伴い教室員も増えて参りました。そして、この度令和4年4月から講座に昇格しましたので、医学教育の認証に求められるグローバルスタンダードに追いつくよう努力致します。

<卒前教育>

クリクラAの学生さんには、手術への参加を最重要課題としています。手洗いをを行い、小さな役割でも担っていただきます。疾患の理解、患者さんの主訴、治療目的と計画、手術手技の理解についてレポートチェックの際に確認します。本院の高度救命救急医療に形成外科も深く関わっていることを認識していただきたく、全身熱傷・手指切断・顔面外傷の処置や手術には、担当でなくてもできるだけ参加してもらいます。

レポートチェックが終わったら、クリクラABともに、ウォークインで受診された手の外傷患者対応のシミュレーションを実施し、診察の手順、検査と処置をどのように行うかについて考えさせます。最後に、昭和と平成に経験した体表面積90%以上の広範囲熱傷を受傷した子供さんの症例を提示し、当時の医療従事者が自家皮膚移植の限界をどのように乗り越えたかを考えさせます。

クリクラBの学生さんには、顕微鏡下の微小血管吻合のトレーニングに参加していただき、組織移植の基本である手技を実際に訓練しています。

<卒後教育>

形成外科学教室は、構成員の半数近くが女性です。既婚女性医師のキャリアをいかに継続させるかは、一医局のみならず国全体で取り組むべき、医学教育のグローバルスタンダードへの道のりです。早朝の

カンファレンスに出席できない子育て中の女性医師もリアルタイムで参加できるよう、Webのカンファレンスシステムを、実のところ新型コロナウイルス感染症感染拡大前から行っていました。自宅から症例検討に参加可能で、関連病院に赴任中の医局員を含めた合同症例検討会も月1回のペースで開催しています。

外傷・熱傷については、早期に主治医と術者として独り立ちを促します。高度救命救急センター及び救急診療部の先生と協力しながら、術前のICや術後の説明も責任を持って行います。乳房再建や頭頸部再建手術といったチームで行う手術では、その一部の行程（皮弁挙上、移植床血管の準備、皮弁採取部の閉創）を担当してもらうようにしています。特殊な手技が多い形成外科では、積極的に手術動画を作成し、術者は先輩の手術を動画で見てから臨むという手順で進めています。

【世界に発信する医学研究】

本学分子医科学研究所の渡辺秀人教授の御指導により、昨年はPROS Oneに「パーシカンノックアウトマウスにおける膝関節靭帯の形成不全」について報告しました。一昨年は、米国形成外科学会誌PRS Global Openに「新しいマウスの熱傷モデルを用いてβFGFの熱傷創における作用の解明」を報告することができました。現在は、リンパ浮腫に対するリンパ節移植について研究中です。

【部署からの一言】

青山初代教授の頃から「商店街方式」として、若くても外来を構え、診察した患者さんの治療計画を自分で立てる機会を早くから持てるようにしてきた歴史があります。現在も若い人にできるだけ活躍してもらうことが、教室の活性化につながると思います。今後も、全国から研修医が集まってくれるように、魅力ある教室を目指して頑張っ参ります。



医局員集合写真



カンファレンスの様子

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

医療福祉相談部

医療福祉相談部は本院中央棟1階の14番総合相談室内にあり、9名の医療ソーシャルワーカーが患者さんやそのご家族の医療福祉に関する相談に対応しています。

医療福祉相談の内容としては、医療費や生活費等の経済的な問題を始めとして、療養生活（転院相談や施設入所相談）、社会復帰、福祉制度の活用等、生活全般の多岐にわたります。

また、愛知医科大学病院が愛知県より指定を受けている各種拠点病院やセンター（難病診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、認知症疾患医療センター）の専門相談等にも対応しています。拠点病院やセンターへの専門相談は、本院外



医療福祉相談部構成員

の患者さんについても対応しており、これは地域の基幹病院の相談室の特長と言えます。

コロナ禍での医療福祉相談は相談内容がより複雑化しており、相談対応に難しさを感じる場面も増えておりますが、患者さんご家族が安心して療養できるように、これからも、院内外の多職種と連携し相談支援に取り組んで参ります。

総合物流センター

皆さんは「物流」と聞くと、まずは「配送」をイメージされるかと思いますが、本院における「物流」は少し違います。総合物流センターは、ただ物を購入し運ぶのではなく、患者さんの安全性を担保しつつ、高度化・効率化していく診療現場の業務を効率的に支えることを目標に、院内物流管理システム（SPD）を取り入れました。

SPDとは「Supply Processing and Distribution」の略称で、病院が使用する物品の供給・在庫・加工・配送など物流を一元管理しています。管理する物品には医薬品や医療器具だけでなく、医療現場で用いる文房具や日用品なども管理対象です。それらの調達・使用・消費・補充といった一連の物流を管理し、在庫管理を



総合物流センター構成員

合理的かつ効率的に行うことで過剰在庫や期限切れを防止し、購入価格の抑制や不良在庫の削減、診療業務の効率化や業務負担の軽減を図りつつ、安全に供給・搬送するよう努めています。



作業風景

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

電気保安規程の一部改正

学校法人愛知医科大学電気保安規程の一部が改正され、使用区域図、点検基準等が改められました。

施行日は令和4年9月1日

学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され、令和5年度における医学部愛知県地域特別枠の入学定員について、令和4年度に引き続き10名とすることになりました。

施行日は令和5年4月1日

「公的研究費等不正使用防止計画」の一部改正

令和4年10月1日付けで「愛知医科大学公的研究費等不正使用防止計画」（学長裁定）の一部が改正され、研究費の不正使用を防止するために必要な事項が整備されました。

医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程の一部が改正され、新教授就任に伴う必要事項が整備されました。

施行日は令和4年11月1日

医学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程の一部が改正され、新たに授業科目として「神経病態・幹細胞生物学」が追加されました。

施行日は令和4年10月1日

加齢医科学研究所規程の一部改正

愛知医科大学加齢医科学研究所規程の一部が改正

され、研究部門として新たに神経iPS細胞研究部門等の4部門が設置されました。

施行日は令和4年10月1日

メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、手術室の管理・運営を行う組織として、新たに手術部が設置されました。

施行日は令和4年8月1日

メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）の一部改正等

訪問看護ステーションの人員配置を変更するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年10月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（介護保険）

眼科クリニックMiRAI運営委員会規程の一部改正等

眼科クリニックMiRAI事務室の人員構成が変更となったことに伴い、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年10月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI運営委員会規程
- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI医療安全管理委員会規程
- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAIオンライン請求システムに係る安全対策要綱